

44  
220

神經病診斷表

059132-000-7

44-220

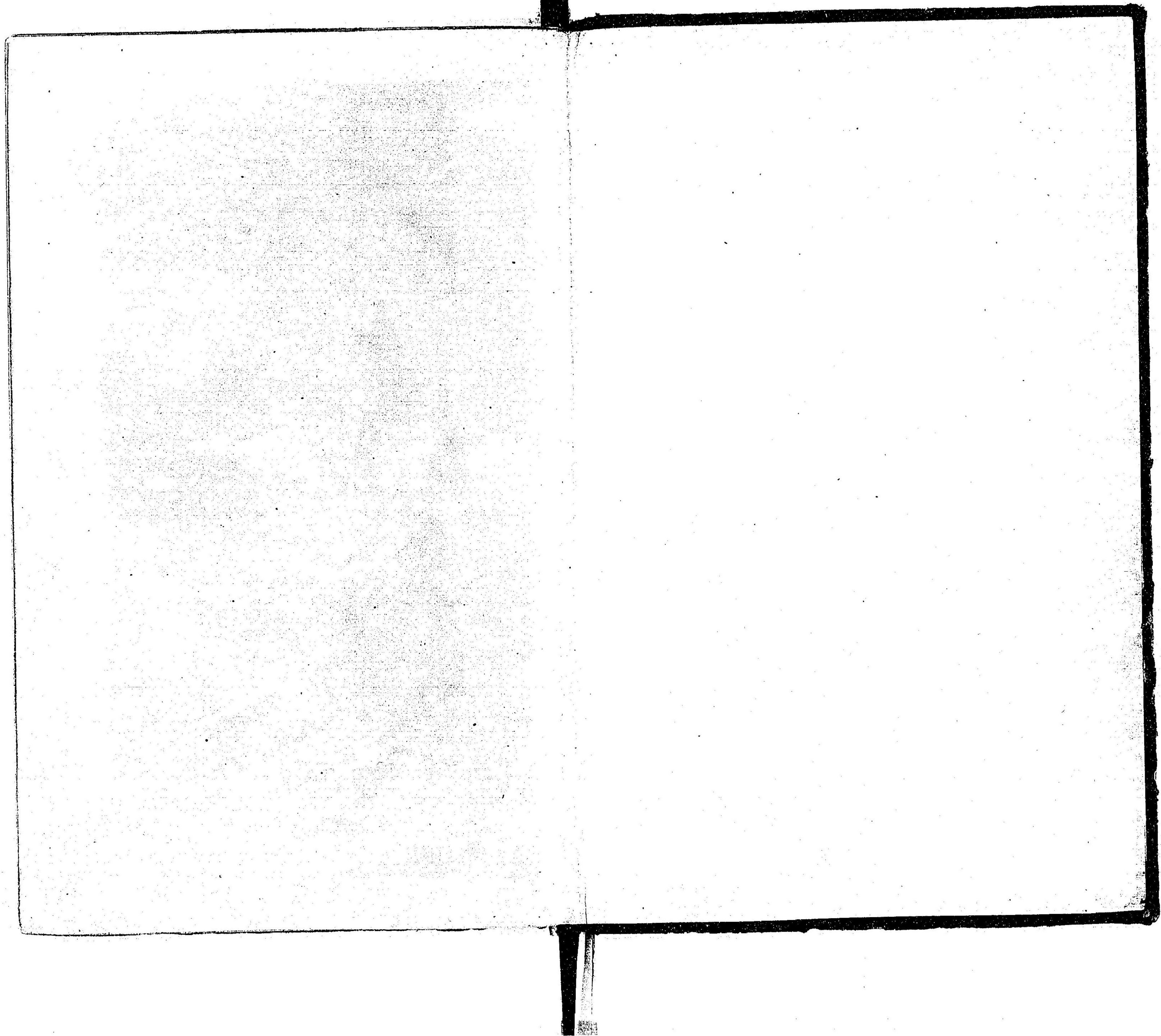
神經病診斷表

三浦 謹之助 / 著

M27

CBE-0018





44-220

銅 鐘

五 字 鐘 刻 記



緒言

該表ハ神經諸病ノ相類似セル者ヲ比較對照シ、其相異ナル所ヲ鑑別シ、合セテ腦、脊髓及ビ末梢神經ノ解剖、生理ト神經病トノ關係トヲ畧説セシ者ニ過ギズシテ各神經病ノ症狀ヲ縷述セシ者ニ非ズ殊ニ末梢神經ノ疾病ノ如キハ繁雜ヲ避ケンガ爲メニ之レヲ省畧シ只、末梢神經ノ分布ヲ示シ以テ讀者ノ參考ニ供セリ又珍奇ノ病ニシテ他病ト全ク相異ナル者ハ記載セザル者アリ故ニ該表ハ主トシテ神經諸病ノ複雑ナル

症狀中ニ就テ其要點ヲ舉グ記シテ以テ表トナ  
シ實地醫家ト學生トノ備忘ニ供セシ者ニシテ  
敢テ神經病學ノ進歩ヲ代表スル者ニ非ルナリ

明治廿七年四月

著者識

神經病診斷表目次

腦ノ疾患

腦ノ解剖及ヒ生理要點

失語症

腦溢血、腦血栓、血塞

腦腫瘍

進行性麻痺、狂、腦脊髓微毒

腦膜炎

腦貧血、腦充血

腦靜脈竇血塞

腦膿瘍、硬腦膜出血

急性小兒腦麻痺

延髓ノ疾患

一 四 丁  
四 六 丁  
七 七 丁  
九 九 丁  
十 十 丁  
十 十 丁  
十 十 丁  
十 十 丁  
十 十 丁  
十 十 丁

進行性延髓球麻痺、腦性舌唇咽麻痺

腦神經ノ作用

脊髓ノ疾患

脊髓ノ解剖、生理要點

脊髓炎、脊髓膜炎

脊髓空洞症、慢性脊髓炎

慢性頸部脊髓炎、慢性肥厚性頸髓硬膜炎

慢性頸部脊髓炎、筋萎縮性側索硬化

筋萎縮性側索硬化、進行性筋萎縮

筋性進行性筋萎縮、脊髓性進行性筋萎縮

附録、假性肥大、「エルブ」氏幼者筋萎縮、「ランツ」氏「デヂェリ

ン」氏筋萎縮

急性脊髓前角炎、多發神經炎、急性上行性脊髓麻痺

痙性脊髓麻痺、續發性側索硬化

十四丁

十五丁

十九丁

二十一丁

二十二丁

二十三丁

二十四丁

二十六丁

二十八丁

二十九丁

三十丁

麻痺性拘攣ノ側索硬化ニ因ルモノ及ヒ歇斯的里ヨリ  
來ルモノ

續發性偏側圓錐索ノ硬化(腦性、脊髓性)

多發竈性硬化、震顫麻痺

多發竈性硬化、舞蹈病

多發竈性硬化、脊髓勞

脊髓勞、診斷的症狀概略

脚氣、脊髓勞、脊髓炎

脊髓勞、「フリードラー」氏病

脊髓性運動失調、小腦性運動失調

中樞性麻痺、末梢性麻痺

脊髓ノ運動、知覺及ヒ反射作用ト脊髓神經ノ

關係

上下肢ニ於ケル皮膚神經ノ分布

三十一丁

三十二丁

三十三丁

三十四丁

三十六丁

三十九丁

四十一丁

四十二丁

四十三丁

四十五丁

四十六丁

腦 疾 患

脊髓末梢神經ノ分布  
官能的疾患

扁頭痛

五十三丁

震顫麻痺

五十三丁

舞蹈病、アテトーゼ

五十五丁

「バセドウ」氏病

五十五丁

「テタニー、トムセン」氏病

五十七丁

破傷風、斯篤利幾尼涅中毒

五十七丁

歇斯的里

五十八丁

癲癇

五十九丁

癲癇、歇斯的里

六十丁

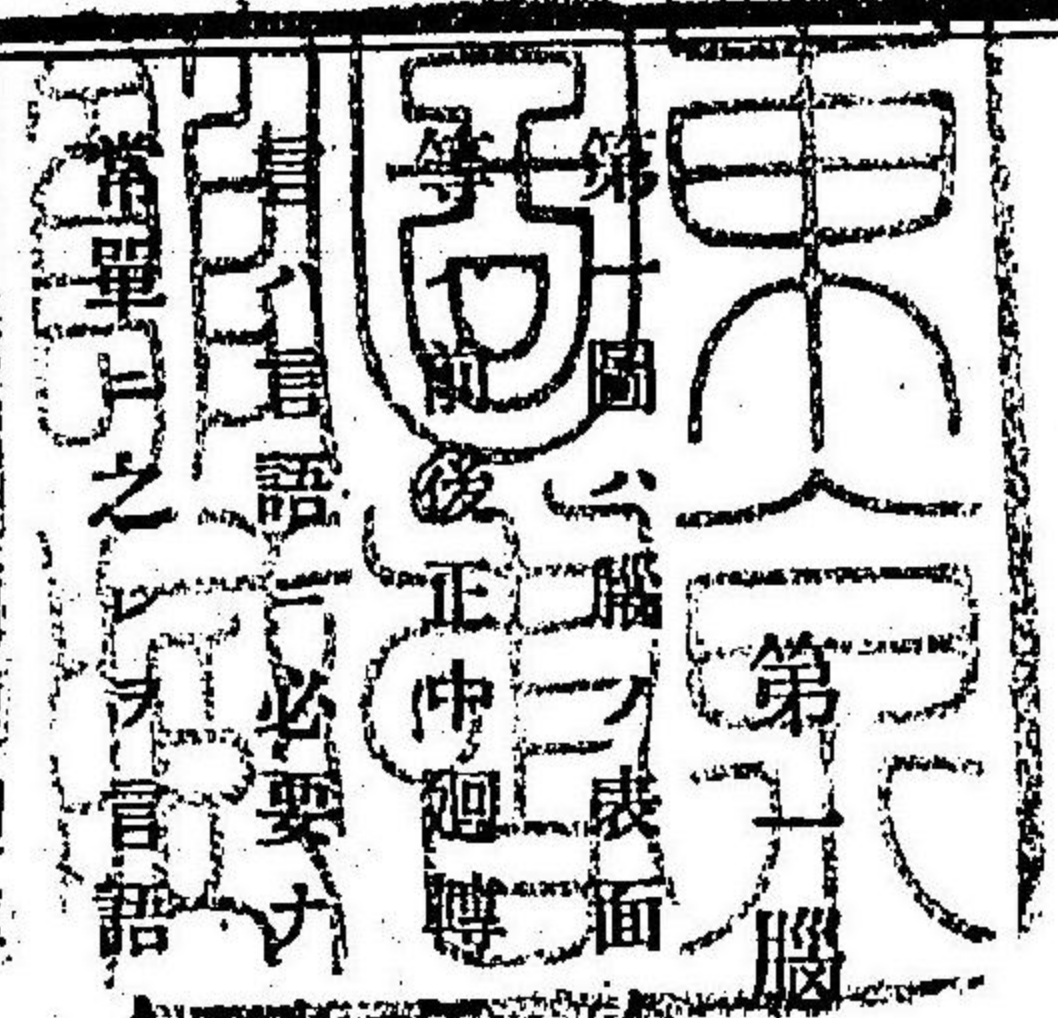
ヒポコンドロリ、神經衰弱、ヒステリー

六十二丁

神經病診斷表

Diagnostische Tabellen für Nervenkrankheiten.

三浦謹之助著



ノ疾患

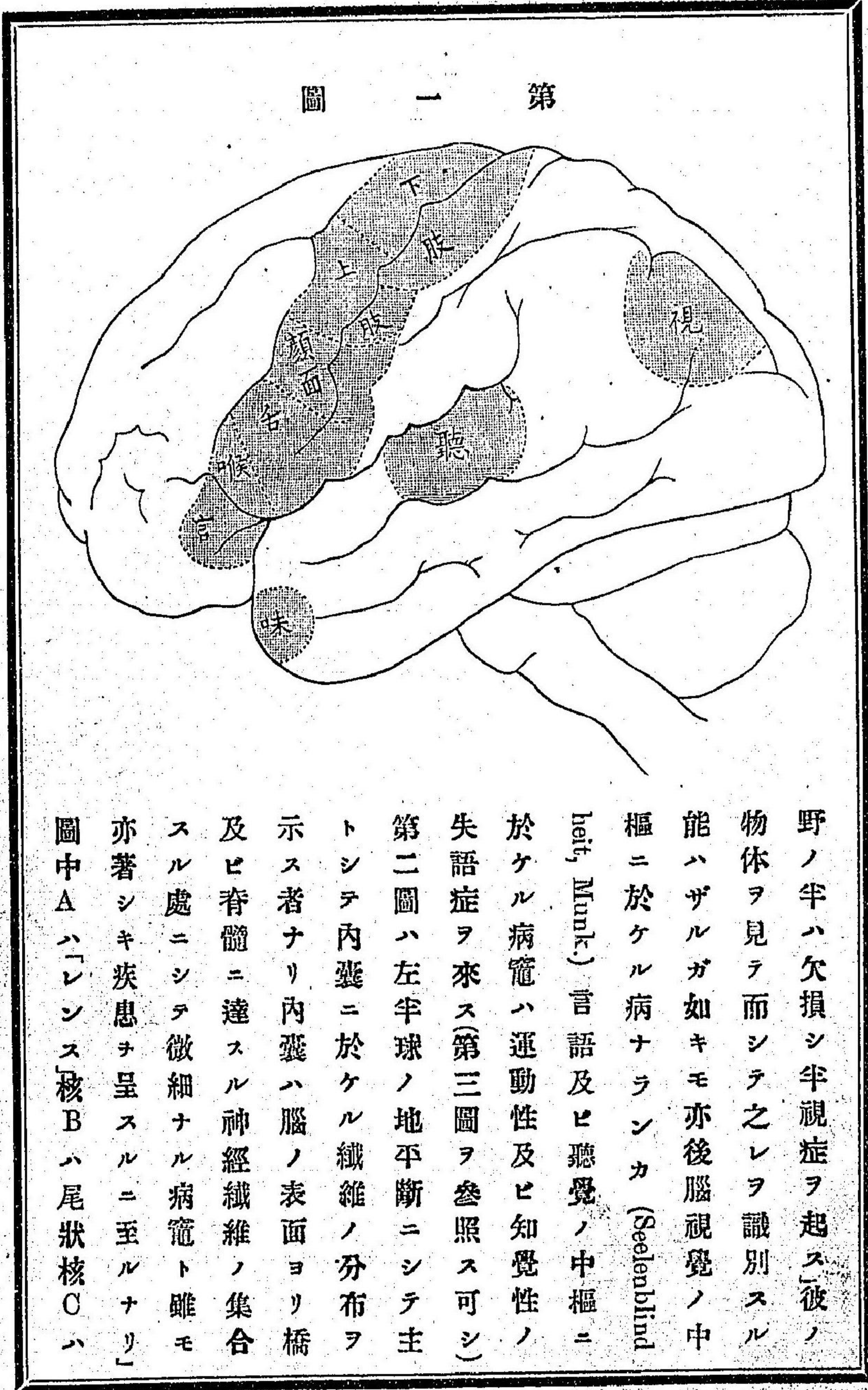
灰白質ニ於ケル中樞ノ分布ヲ示ス者ニシテ下肢、上肢、顔面、舌、喉位セル各部運動ノ中樞ナリ

運動ノ記憶ヲ主トル中樞ニシテ左側ノ第三前腦廻轉ニアリ通

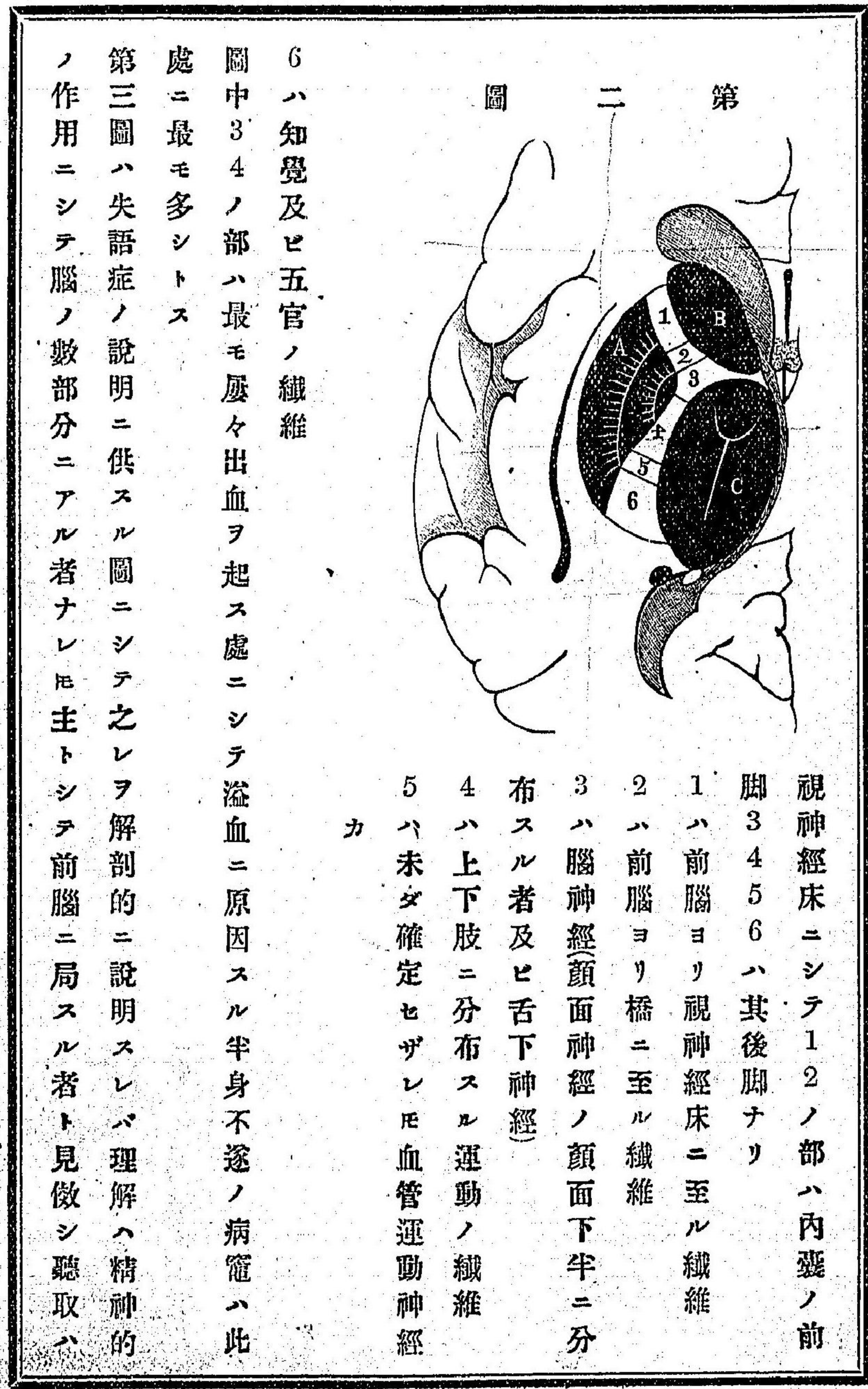
常單片之ヲ言語ノ中樞ト稱ス  
聽ハ第一顯顯廻轉ニ於ケル言語ノ音響ヲ記憶スルノ部ニシテ視ハ視覺、味ハ味覺ノ中樞ナリ

若シ腫瘍、骨片、微毒性又ハ結核性新生物、寄生蟲、出血等ノ如キ異物、下肢、上肢、顔面等ノ中樞ヲ刺戟又ハ破壊スルキハ反對側ノ下肢、上肢又ハ顔面ニ於テ痙攣又ハ麻痺ヲ起シ、視覺ノ中樞一側ニ於テ病ニ罹ルキハ視神經纖維ノ半交叉ニ由テ兩眼ニ於ケル視





野ノ半ハ欠損シ半視症ヲ起ス彼ノ  
 物体ヲ見テ而シテ之レヲ識別スル  
 能ハザルガ如キモ亦後腦視覺ノ中  
 樞ニ於ケル病ナランカ (Seelenblind  
 heit, Munk.) 言語及ヒ聽覺ノ中樞ニ  
 於ケル病竈ハ運動性及ヒ知覺性ノ  
 失語症ヲ來ス(第三圖ヲ參照ス可シ)  
 第二圖ハ左半球ノ地平斷ニシテ主  
 トシテ内囊ニ於ケル纖維ノ分布ヲ  
 示ス者ナリ内囊ハ腦ノ表面ヨリ橋  
 及ヒ脊髓ニ達スル神經纖維ノ集合  
 スル處ニシテ微細ナル病竈ト雖モ  
 亦著シキ疾患ヲ呈スルニ至ルナリ  
 圖中Aハ「レンス核」Bハ尾狀核Cハ



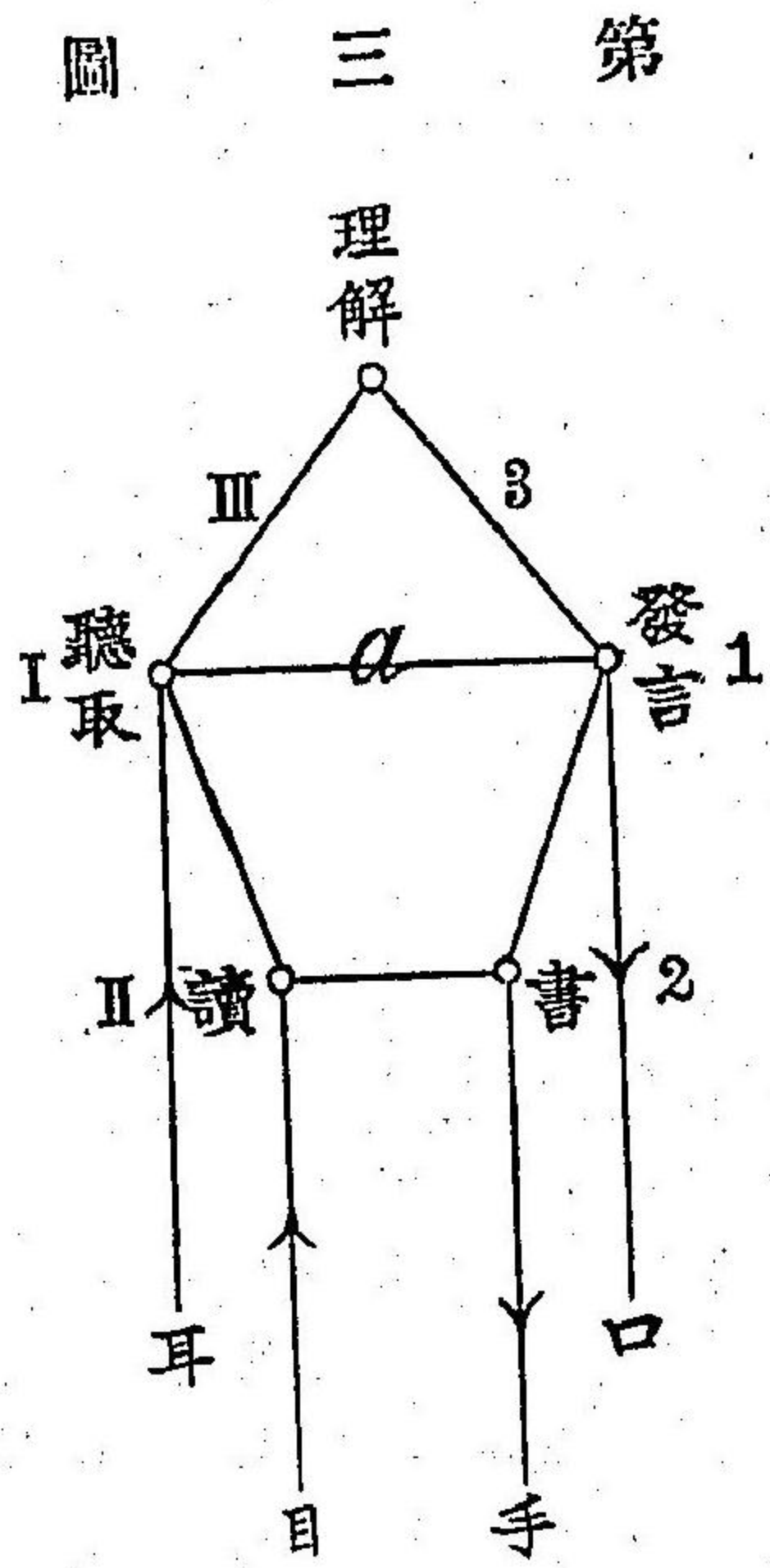
視神經床ニシテ1 2ノ部ハ内囊ノ前  
 脚3 4 5 6ハ其後脚ナリ  
 1ハ前腦ヨリ視神經床ニ至ル纖維  
 2ハ前腦ヨリ橋ニ至ル纖維  
 3ハ腦神經(顔面神經ノ顔面下半ニ分  
 布スル者及ヒ舌下神經)  
 4ハ上下肢ニ分布スル運動ノ纖維  
 5ハ未ダ確定セザレモ血管運動神經  
 カ

6ハ知覺及ヒ五官ノ纖維  
 圖中3 4ノ部ハ最モ屢々出血ヲ起ス處ニシテ溢血ニ原因スル半身不遂ノ病竈ハ此  
 處ニ最モ多シトス  
 第三圖ハ失語症ノ説明ニ供スル圖ニシテ之レヲ解剖的ニ説明スレバ理解ハ精神的  
 ノ作用ニシテ腦ノ數部分ニアル者ナレモ主トシテ前腦ニ局スル者ト見做シ聽取ハ

Leitungsaphasie    Sensorische Aphasie    Motorische Aphasie  
 症語失路道傳(路橫)三第    症語失性覺知二第    症語失性動運一第

	(III) ニ在ル ニ在ル ニ在ル 以上	(II) ニ在ル ニ在ル ニ在ル 以下	(I) 病中 ニ在ル ニ在ル 中	(3) 病中 ニ在ル ニ在ル 以上	(2) 病中 ニ在ル ニ在ル 以下	(1) 病中 ニ在ル ニ在ル 中
	-	-	-	+	+	+
	+	-	-	+	-	-
	+	+	+	-	-	-
	-	+	-	-	+	-
	-	+	-	+	-	-
	+	+	-	+	+	+
	+	+	+	-	+	-
	+	+	+	+	+	+

上肢ノ運動神經、發言ト口トノ間ハ舌下神經トス今此等各部ニ起ル可キ障害ノ位置如何ニ由リテ種々ナル失語症ノ症狀ヲ誘起スルヲ以テ其大略ヲ左表ニ於テ示サントス(第三圖ノ右半ニ起ル者ハ運動性失語症1 2 3ニシテ左半ニ起ル可キ者ハ知覺性失語症 I II III等ナリ)



第一圖聽ノ部發言ハ同圖言ノ部 a ハ「レール」島ノ部讀ハ第一圖視ノ部書ハ上肢ノ部( )ト相一致スル者ナリ其他 III 及ビ 3 ハ聽覺ト言語ノ中樞ヲ理解ニ供スル部分ト相連合セシムルノ線ト目トノ間ハ視神經、書ト手トノ間ハ

失語症 Aphasie.

言語ノ理解。    言語ノ模倣。    談話。

言語ノ訂正。    發音ノ。    發音セズ。    理解ノ自由。    書取。    寫字。

讀ム。    讀ム。    書スル。    書取。    寫字。

腦溢血 Hamorrhagia cerebri.

高齡者ニ多シ(但シ微毒患者ヲ除ク)

血管ノ「アテロマ」變性及ビ心臟肥大アリ

患者ハ卒中發作前ハ全ク健康ナリシヲ尿中蛋白又ハ圓滲アリテ慢性腎炎ノ徵アルヲ

發作中顔面潮紅。頸動脈搏動強ク脈搏緩慢ナリ(稀ニハ之ニ反スルモノアリ)

体温ハ發作中減退シ後テ三十七八度ニ至ル死ニ臨

ミ上昇ス(三十九度乃至四十度)

發作ハ血栓ニ比スレバ長シト雖モ若シ人事不省久シク持續スル片(二日以上)ハ恢復セズ

遠達作用トノ尿崩症蛋白尿等アリ半身不遂ハ左側

腦血栓(血塞)

Embolia et Thrombosis cerebri.

若年者(或ハ高年ノ者)

血管ノ「アテロマ」變性。關節僂麻質斯又ハ膿毒症ノ

爲メニ心臟瓣膜病アル者。慢性心臟瓣膜病。心臟脂

化。動脈瘤。肺疾患等ノ存在。他ノ臟器ニモ血栓ノ

徵アルヲ

發作時顔面潮紅ナク脈搏ハ心臟病ヲ兼テザル片ハ

尋常ナリ

体温ハ平常發作后上昇(三十八九度乃至四十度)ス

ト雖モ預后ニ關スルコトナシ

發作時間短シ若シ血栓ノ區域廣キニ汎ル片ハ發作

モ亦隨テ長シト雖モ恢復ス

遠達作用トノ呼吸障害等アルノミ半身不遂多クハ

又ハ右側

癲癇様痙攣ハ腦室若クハ腦皮質ニ出血ノ決潰セシ際ニ來ル故ニ其預后不良ナリ(瞳孔ノ縮小ヲ兼ヌルコトアリ)

網膜動脈ハ「アテロマ」變性ヲ呈シ且ツ網膜面ニ出血アリ或ハ網膜中心靜脈ニ血塞ヲ見ルコトアリ

右側ニ發シ失語症ヲ兼ヌ

癲癇様發作ハ預後不良ノ徵ナラズ

往々網脈中心動脈ニ血栓ヲ認ム

腦腫瘍 Tumor cerebri.

頭痛 或ハ一部ニ限局シ或ハ否ラズ乙者ヲ多シトス發育緩慢ナル腫瘍ニ在テハ稀ニハ頭痛ヲ欠如スルモノアリ

健忘精神痴鈍眩暈

癲癇様痙攣發作シヤクソン氏癲癇

症 般 鬱血乳頭

嘔吐(腦性)

卒中様發作又ハ人事不省ノ發作

全身營養不良トナリ羸瘦ス

一肢若クハ半身ノ拘攣又ハ麻痺

腫瘍若シ後頭窩ニ發生スルキ後頭痛アリ其他

顔面神経ト上下肢ノ交叉麻痺強迫位置小腦性失調運動ヲ來シ早ク既ニ乳頭ノ

鬱血ト腦室ノ水腫トヲ發ス

腫瘍若シ中頭蓋窩ニアルキハ反對側ノ半視症動眼神經ト上下肢ノ交叉麻痺等

ヲ起ス

腫瘍若シ顛葉ニ在ルキハ失語症ヲ發シ 后頭葉ニ於テハ半視症或ハ精神的

失明ヲ來ス

小兒ニハ結核性結節多ク中年患者ニハ護謨腫多シ乙ニ基因スル頭痛ハ夜間殊

ニ甚シク且腦表面ニ於テハ癩癩様發作腦底ニ於テハ動眼神經麻痺ヲ起ス其他

驅梅療法モ亦診斷ヲ助ク囊 蟲ニハ一般症候ヲ來スヲ少シ 包蟲ハ之ニ反ス

(ヨセ照參ヲ圖四第及圖一第)候症所局

瘍腫

ノ性質

肉腫及ビ癌腫ハ其發育甚ダ迅速ナリ

神經間質結締組織ニ在テハ其症候ニ消長アリ 動脈瘤ハ腦底ニ發スルヲ多ク

定時性發育ヲ呈ス 腦膿瘍及ビ腦膜炎ハ熱發シ其經過急性ナリ 癩癩及ビ偏

頭痛一診立ドコロニ決シ得ベシ

進行性麻痺狂

*Dementia paralytica.*

精神痴鈍トナリ思考、判斷、記憶力等減少シ道德風俗等ニ衝突スルノ行ヲ爲シテ敢テ意ニ介セズ(如此キ者數月又ハ數年ナルヲアリ)

大妄想又ハ「ヒポコンドリー」様ノ精神症アリ卒中

様、癩癩様發作ノ後麻痺失語症等ヲ發スレト暫時

ニシテ消退ス

頭痛、頭重、眩暈等アレト甚シカラズ

腦脊髓微毒

*Syphilis cerebrospinalis.*

麻痺狂ノ如キ精神異常ヲ呈スルキハ既ニ多少身體上ノ諸症狀ヲ呈ス(腦神經麻痺、半身不隨等)

鬱憂狂、癡狂、痴呆等ノ精神症狀多シ卒中様、癩癩

様發作ノ後ニ遺レル麻痺ハ數時又ハ數日間ニシテ

減退スルヲアレト時トシテハ却テ増進スルヲアリ

劇甚ナル頭痛アリテ殊ニ夜間ニ甚シ

言語蹉跎トシテ音ヲ轉倒シ或ハ脱落ス讀書寫字ニ於テモ亦然リ

瞳孔不同、反射的不動、複視視神經萎縮等アリ

發音ノ際口圍ニ震顫アリ舌ヲ出サシムルモ亦然リ

顏面神經及ビ三叉神經ノ麻痺ハ稀レナリ

腱反射ハ脊髓勞ノ症狀ヲ呈スルギハ消失シ其他ニ

於テハ却テ亢進スルコアリ

電擊様疼痛ハ脊髓勞ノ症狀ヲ呈スル者ニノミアリ

觸覺存在シテ痛覺脫失スルコアリ

言語ノ障害ハ失語症及ビ舌ノ麻痺ニ由テ起レル者ノミ

瞳孔不同複視アリ急性ナル視神經炎ヲ起ス

動眼神經ノ外ニ尙ホ顏面神經三叉神經、聽神經、味

神經、嗅神經等ニ麻痺ヲ起ス

腱反射ハ亢進スルコ多シ然レモ時トシテハ消失ス

神經痛様疼痛

半身知覺脫失、一定ノ神經經過ニ一致セル知覺麻痺

### 腦膜炎 Meningitis.

(四肢及ビ項部ノ強硬

### 一般症候

咀嚼筋痙攣

腹部陷沒

皮膚及ビ筋肉知覺過敏

腦神經不全麻痺(第四圖ヲ參考ス可シ)

脈搏遲緩

譫語

尿管秘結

呼吸頻數不整

第一流行性腦脊髓膜炎 顔面及他部ノ蕁麻疹及ビ匍行疹ヲ認ム

第二結核性腦膜炎ハ主トシテ腦底ヲ侵シ身体他部ノ結核性疾患殊ニ岩樣骨疾病

アリ 前驅期長ク其經過劇甚ナラズ又脈絡膜ノ粟粒結核ヲ見ル

第三續發性腦膜炎ハ產褥熱膿毒症肺炎頭部丹毒腸窒扶斯急性關節僵麻質斯實

扶帝里等ニ續發スルモノトス

### 腦膜炎ノ種類

腦貧血 Anämia cerebri.

(症候) 顔面蒼白、眼前暗黒トナリ、瞳孔散大シ、耳鳴、眩暈、惡心、嘔吐、頭重、譫弱、不眠、昏胃、又ハ人事不省トナリ、脈搏細小且頻數トナル、而シテ主トシテ萎黃病、貧血、白血病、衰弱、飢餓患者及ビ穿腹術ヲ行フ際等ニ發スルモノトス

腦充血ハ診斷シ難シ  
Hyperämia cerebri.

腦靜脈竇血塞 Thrombosis sinuum cerebri.

一般症狀 頭痛、嘔吐、癲癇様發作、項部強硬、精神昏胃

橫竇血塞 耳後ノ疼痛性浮腫及ビ外頸靜脈細小トナル

上矢狀竇血塞 顛顛靜脈ノ擴張、衄血ヲ見ル、海綿竇血塞 眼瞼及ビ結膜ノ浮腫、眼球突出、網膜及ビ孔頭ノ鬱血

局所症狀

此病ハ癲癇トシテモ見ラレ

**腦膿瘍 Abscessus cerebri.**

原因 外傷、岩様骨骨瘍、鼻腔内化膿性炎症、膿毒症、潰瘍性心内膜炎、肺壞疽、腐敗性氣管枝炎、膿胸等

頭痛  
眩暈  
嘔吐  
精神痴鈍  
鬱血乳頭甚ダ罕ナリ  
惡寒戰慄間歇性ノ熱  
脈搏頻數  
局竈症候トシテ癲癇様發作、一肢ノ孤發性痲痺半視失語症等アリ

**硬腦膜出血 Pachymeningitis interna haemorrhagica.**

原因 慢性酒精中毒、痲痺狂、慢性腎炎、肺及心臟病、急性傳染病、出血性諸病

頭痛  
卒中様發作  
嘔吐  
精神痴鈍  
鬱血乳頭ヲ見ルコトアリ  
發熱ナシ  
脈搏緩慢不整、瞳孔縮小反應遲鈍トナル  
半側又ハ兩側痲痺及ビ拘攣等アリ

### 急性小兒腦麻痺

*Hemiplegia spastica infantilis, cerebrale Kinderlähmung.*

嘔吐、痙攣、昏睡

半身不隨又罕ニハ一肢麻痺或ハ截癱(顔面麻痺ハ甚ダ稀ナリ)

腱反射亢進、變質反應ナシ、筋肉拘攣

半側舞蹈病、半身アテトーゼ、癲癇、精神痴鈍、失語症等

知覺異常ナシ

身体ノ發育ニ從ヒ麻痺側ハ健側ヨリモ矮小トナル

### 延髓ノ疾患

#### 進行性延髓球麻痺(舌唇喉麻痺)

*Paralysis glosso-labio-laryngea.*

項部ノ疼痛、牽引等ノ前驅症アリテ后チ漸々他ノ

#### 腦性舌唇咽麻痺

*Paralysis glosso-labio-pharyngea cerebralis.*

急ニ舌唇咽麻痺ノ症狀ヲ起ス

諸症ヲ發ス

舌筋萎縮シテ纖維性攣縮ヲ呈シ表面凹凸不平ヲ爲

シ終ニ變性反應ヲ呈ス

唇及ビ口圍ノ筋モ亦萎縮シ纖維性攣縮ヲ呈スルコ

兩側殆ンド平等ナリ

咽頭及ビ喉頭ノ麻痺ヲ呈ス

腦症狀ナシ

舌萎縮セズ變性反應ヲ呈セズ

唇筋麻痺スレドモ萎縮セズ纖維性攣縮ヲ呈セズ且ツ

兩側ニ麻痺ノ差アリ

咽頭ニハ麻痺ヲ呈スレドモ喉頭ニハ障害殆ンド之レ

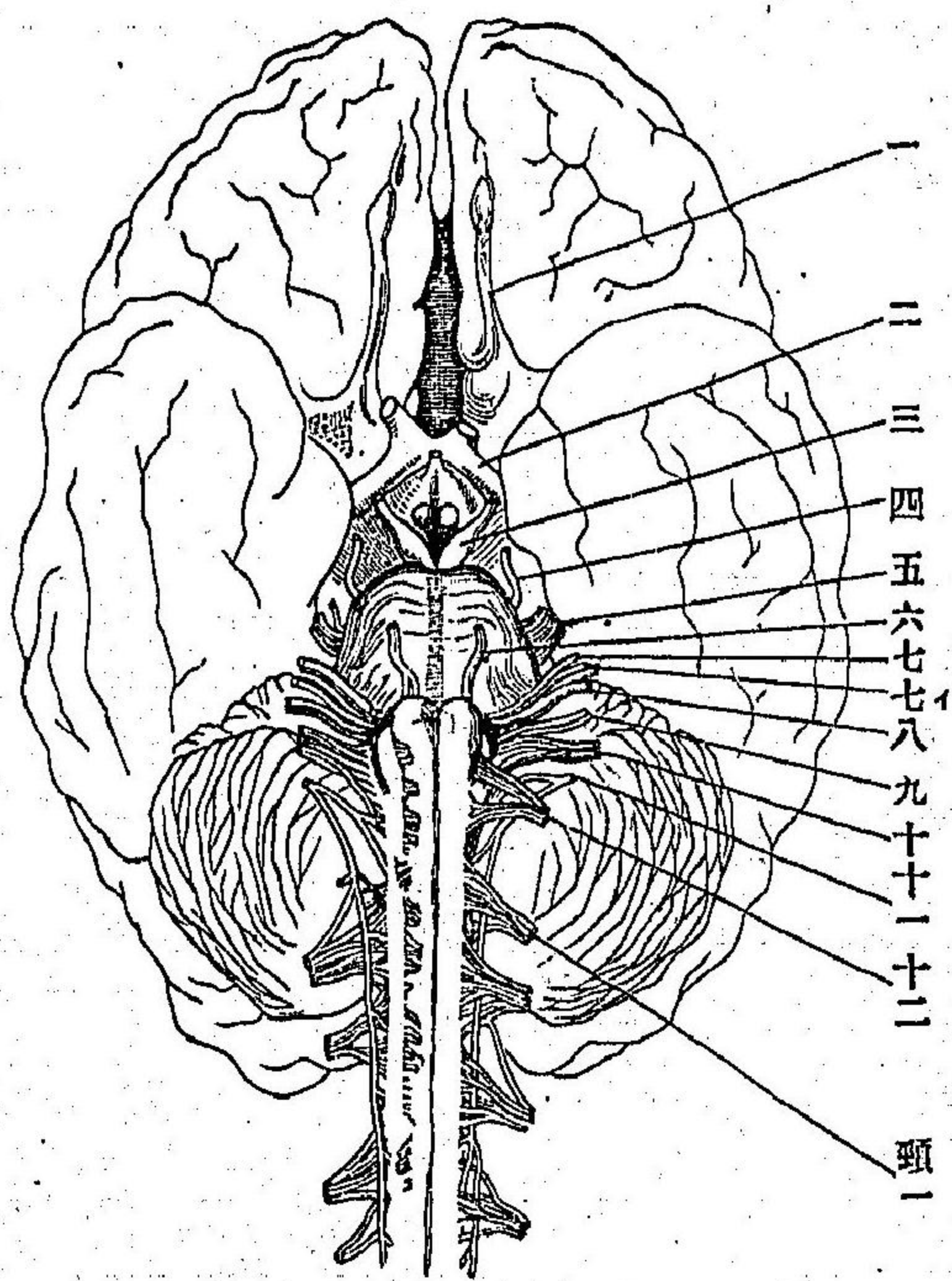
ナク或ハ全ク之レヲ缺ク

半身ノ知覺及ビ運動麻痺、一肢麻痺、失語症等ノ腦  
症狀アリ

### 腦神經ノ作用

腦ヨリ出ツル所ノ十二對末梢神經ノ疾病ハ今マ一々之レヲ記載セズ其腦基底ニ於  
ケル位置ヲ示スニ第四圖ヲ以テシ左ニ其作用ヲ記録シテ參考ニ供ス

第四圖



〔第一〕視神經ハ鼻腔ノ上部ニ分布シ眼覺ヲ主ドル  
 〔第二〕視神經ハ網膜ニ分布シ視覺ヲ主ドル  
 〔第三〕動眼神經ハ眼瞼舉筋上直筋下直筋内直筋下斜筋虹彩括約筋及ビ毛様筋ニ分布ス  
 〔第四〕滑車神經ハ上斜筋ノ運動神經ナリ  
 〔第五〕三叉神經 (一) 第一枝眼神經ハ天幕鼻粘膜ノ上前部篩骨及ビ前額竇上眼瞼ノ皮膚鼻脊及ビ鼻尖前額及ビ顛頂部ノ皮膚三角縫合ニ至ル迄眼球及ビ涙腺ニ分布ス  
 (二) 第二枝上顎神經ハ上顎齒及ビ齒齦下眼瞼類部上唇及ビ鼻側ノ皮膚口蓋及ビ鼻腔後下部ノ粘膜

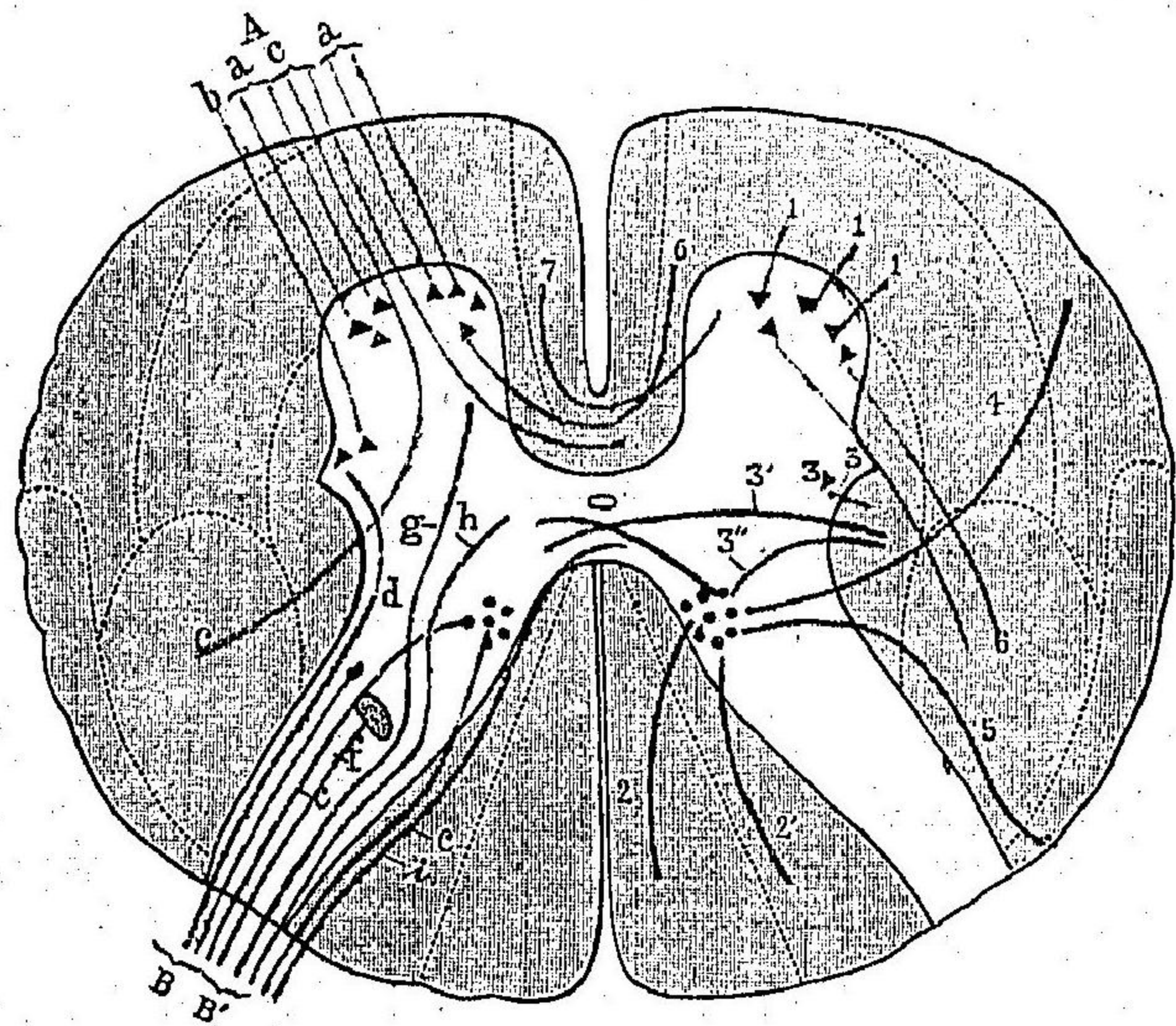
(三) 第三枝下顎神經ハ顛顚筋咬筋及ビ内外翼狀筋口蓋張筋鼓膜張筋頰粘膜等ニ分布シ舌神經トナリテ舌端及ビ舌縁ノ味覺ヲ主ドリ下顎齒及ビ齒齦下唇及ビ頤部ノ皮膚頤舌骨筋二腹顎筋ノ前腹顛顚耳廓前部外聽道下顎等ノ皮膚及ビ耳下腺ニ分布ス  
 (第六) 外轉神經ハ外直筋ニ至ル  
 (第七) 顏面神經ハ顔面ノ筋眼圍輪走筋后頭前額筋外耳筋鐙筋口蓋舉筋口蓋壓莖筋莖狀舌骨筋二腹顎筋ノ後腹頰筋皮下顎筋舌下腺及ビ下顎下腺ヲ主ドル  
 (第八) 聽神經ハ蝸牛殼其他ノ内耳ニ分布ス  
 (第九) 舌咽頭神經ハ舌ノ後部ト咽頭ニ於テ味覺ヲ主ドリ其他扁桃腺咽頭鼓室喇叭管ノ粘膜莖狀咽頭筋及ビ恐クハ耳下下顎下及ビ舌下ノ三唾腺ニ分布ス  
 (第十) 迷走神經ハ咽頭食道胃肝脾喉頭氣管肺等ニ運動知覺及ビ固有機能ノ神經ヲ送リ心臟ノ作用ヲ靜止シ其上喉頭神經ハ喉頭ノ粘膜ト環狀甲狀筋ニ至リ下喉頭神經ハ其他ノ喉頭諸筋ニ分布ス  
 (第十一) 副行神經ハ胸鎖乳嘴筋僧帽筋  
 (第十二) 舌下神經ハ舌筋ニ入り舌ノ運動ヲ主ドル



脊  
髓  
疾  
患

脊髓諸病

第五圖



脊髓ノ横断面ニ於テ神經纖維ト灰白  
 質ノ關係ヲ圖ノ左側ニ白質ト神經纖  
 維ノ關係ヲ其右側ニ示ス(赤色ハ運動)  
 第一圖ノ左側、Aハ前根、Bハ前角ノ運動神  
 經細胞ニ至ル纖維、Cハ直方部、Dハ側角ニ至ル  
 間索ニ至ル纖維、Eハ其内方部、Fハ側角ニ至ル  
 ハ後根ノ外方部、Gハ其内方部、Hハ側角ニ至ル  
 ナル者、Iハ前角ニ至ル者、Jハ後根ニ至ル  
 者、Kハ前角ニ至ル者、Lハ後根ニ至ル者、M  
 ナル者、Nハ前角ニ至ル者、Oハ後根ニ至ル者、P  
 ナル者、Qハ前角ニ至ル者、Rハ後根ニ至ル者、S  
 ナル者、Tハ前角ニ至ル者、Uハ後根ニ至ル者、V  
 ナル者、Wハ前角ニ至ル者、Xハ後根ニ至ル者、Y  
 ナル者、Zハ前角ニ至ル者、1ハ後根ニ至ル者、2  
 ナル者、3ハ前角ニ至ル者、4ハ後根ニ至ル者、5  
 ナル者、6ハ前角ニ至ル者、7ハ後根ニ至ル者、8  
 ナル者、9ハ前角ニ至ル者、10ハ後根ニ至ル者、11  
 ナル者、12ハ前角ニ至ル者、13ハ後根ニ至ル者、14  
 ナル者、15ハ前角ニ至ル者、16ハ後根ニ至ル者、17  
 ナル者、18ハ前角ニ至ル者、19ハ後根ニ至ル者、20  
 ナル者、21ハ前角ニ至ル者、22ハ後根ニ至ル者、23  
 ナル者、24ハ前角ニ至ル者、25ハ後根ニ至ル者、26  
 ナル者、27ハ前角ニ至ル者、28ハ後根ニ至ル者、29  
 ナル者、30ハ前角ニ至ル者、31ハ後根ニ至ル者、32  
 ナル者、33ハ前角ニ至ル者、34ハ後根ニ至ル者、35  
 ナル者、36ハ前角ニ至ル者、37ハ後根ニ至ル者、38  
 ナル者、39ハ前角ニ至ル者、40ハ後根ニ至ル者、41  
 ナル者、42ハ前角ニ至ル者、43ハ後根ニ至ル者、44  
 ナル者、45ハ前角ニ至ル者、46ハ後根ニ至ル者、47  
 ナル者、48ハ前角ニ至ル者、49ハ後根ニ至ル者、50  
 ナル者、51ハ前角ニ至ル者、52ハ後根ニ至ル者、53  
 ナル者、54ハ前角ニ至ル者、55ハ後根ニ至ル者、56  
 ナル者、57ハ前角ニ至ル者、58ハ後根ニ至ル者、59  
 ナル者、60ハ前角ニ至ル者、61ハ後根ニ至ル者、62  
 ナル者、63ハ前角ニ至ル者、64ハ後根ニ至ル者、65  
 ナル者、66ハ前角ニ至ル者、67ハ後根ニ至ル者、68  
 ナル者、69ハ前角ニ至ル者、70ハ後根ニ至ル者、71  
 ナル者、72ハ前角ニ至ル者、73ハ後根ニ至ル者、74  
 ナル者、75ハ前角ニ至ル者、76ハ後根ニ至ル者、77  
 ナル者、78ハ前角ニ至ル者、79ハ後根ニ至ル者、80  
 ナル者、81ハ前角ニ至ル者、82ハ後根ニ至ル者、83  
 ナル者、84ハ前角ニ至ル者、85ハ後根ニ至ル者、86  
 ナル者、87ハ前角ニ至ル者、88ハ後根ニ至ル者、89  
 ナル者、90ハ前角ニ至ル者、91ハ後根ニ至ル者、92  
 ナル者、93ハ前角ニ至ル者、94ハ後根ニ至ル者、95  
 ナル者、96ハ前角ニ至ル者、97ハ後根ニ至ル者、98  
 ナル者、99ハ前角ニ至ル者、100ハ後根ニ至ル者、

維ノ占ムル所ニシテ其後部ハ知覺細胞及ビ知覺纖維ノ分布スル所タリ  
 脊髓ノ横断面ハ白質ト灰白質トヨリ成リ白質中ニ於テハ腦ヨリ脊髓ノ前角ニ達ス  
 ル運動ノ纖維其前部及ビ側部ヲ占ム故ニ該部ノ傷害ハ病竈ヨリ以下ノ運動麻痺ヲ  
 起シ前索及ビ側索ノ續發性變質ニ由テ筋ノ強直及ビ腱反射ノ亢進ヲ來ス白質中ノ  
 知覺纖維ハ主トシテ後索殊ニ「アルタ」氏索ニアリト雖モ他ノ一部(筋ノ知覺カ?)ハ  
 小腦側索ニアリ故ニ後索ノ疾病ハ知覺脫失運動失調及ビ腱反射ノ消失ヲ來ス  
 脊髓横断面中ノ灰白質ヲ分ツテ前角ト後角ト爲ス前角ノ神經細胞ハ腦ヨリ前索又  
 ハ側索トナリテ來レル運動纖維ノ終ル所脊髓神經前根ノ發スル所ナリ又其末梢神  
 經ノ分布セル筋肉ノ營養中樞反射運動ノ媒介所タリ故ニ前角ノ病竈ハソレニ對ス  
 ル部分ノ運動麻痺筋ノ萎縮末梢神經ノ變質腱反射ノ消失ヲ來ス  
 後角ハ知覺及ビ反射ヲ主トリ殊ニ中心管ヨリ以後ノ病竈ハ痛覺ト温覺ノ缺損ヲ來  
 ス然レモ觸覺ハ存在ス  
 若シ脊髓ハ半側外傷又ハ壓迫等ノ爲メニ毀損セラル、キハ病竈ノ下部ニ於テ同側  
 ニハ運動麻痺血管擴張及ビ知覺過敏ヲ來シ反對側ニハ知覺麻痺ヲ呈ス其他損傷部

ノ高サニ於テハ同側ニ知覺麻痺ノ一帯アリ又其上ニハ知覺過敏ノ一帯アリテ反對  
 側ノ知覺麻痺ノ上界ニ達ス如此麻痺ヲ「ブロンセカー」氏ノ半側麻痺ト稱ス(Brown-Se-  
 quard'sche Lähmung, Halbseitlähmung.)

**脊髓炎 Myelitis spinalis.**

背部ノ疼痛ヲ呈セズ縦令之アルモ病變部ニ局シ壓  
 迫等ニ由リテ起ル者ニコレアリ  
 脊椎筋ノ拘攣ナク又背部強直ナシ  
 痛覺及ビ其他ノ知覺皆ナ脱失ス  
 麻痺ハ早ク發シ且完全ニシテ多クハ痙攣性麻痺ナリ  
 而シテ久シク下肢ニ限局スルコトアリ(局部ヲ定ムル  
 ニハ第十二圖ヲ見ヨ)  
 腱反射甚シク亢進ス然レモ病竈若シ反射弓ヲ害ス

**脊髓膜炎 Meningitis spinalis.**

劇甚ノ疼痛アリテ運動ノ際又ハ脊椎ヲ壓スルキハ  
 増劇ス嗣ニ於テハ帶狀痛ヲ致スコトアリ  
 項背ノ筋痙攣シ又ハ強直トナル  
 知覺過敏、放散性疼痛アリ  
 脊髓炎ニ比スレバ概シテ刺戟症狀多シト雖モ後ニ  
 至レバ脊髓膜炎ノ脊髓周邊ニ蔓延スルニ由テ輕度  
 ノ麻痺ヲ起ス(Perimyelitis 脊髓周圍炎)  
 腱反射僅ニ亢進ス

ルキハ消失ス  
膀胱、直腸ハ病初ヨリ障害ヲ被ムル

膀胱、直腸ハ他ノ筋ニ麻痺ヲ發シタルキ初メテ障  
害ヲ受ク

### 脊髓空洞症 Siringomyelia.

痛覺及ビ温覺脫失シ觸覺及ビ筋覺ハ比較的佳良ナ  
リ

### 慢性脊髓炎

*Myelitis transversalis chronica.*

總テノ知覺悉ク脱失ス

血管運動及ビ榮養神經ノ障害ニ由リ痺裂、指疽、手  
指脱落等ヲ來シ癩病ト誤認スルコアリ  
筋萎縮ハ上肢ヨリ始マルコ多ク稀レニハ下肢又ハ  
胴ヨリス(故ニ進行性筋萎縮又ハ筋萎縮性側索硬  
化等ト誤認スコルアレド此等ノ病ニハ知覺異常  
ナシ)

血管運動及ビ榮養神經ノ障害アレド大水疱疹及ビ  
痔瘡ヲ以テ主トナス  
筋萎縮ハ通常之レナシ若シ之レアルキハ先ツ麻痺  
ヲ起シ后チ萎縮ヲ來シ且ツ其部分廣汎ナリ

### 慢性頸部脊髓炎

*Myelitis cervicalis chronica.*

運動麻痺ヲ起ササルニ疼痛ヲ發スルコナシ

### 慢性肥厚性頸髓硬膜炎

*Pachymeningitis cervicalis hypertrophica.*

初起ヨリ上下肢同時ニ麻痺ヲ來シ呼吸運動及ビ瞳  
孔ノ障害ヲ呈ス(上肢ニハ筋萎縮ヲ見ルコアリ)

初メ劇甚ナル疼痛期アリ數月ヲ經テ第二期即チ麻  
痺期ニ轉ジ(上肢殊ニ尺骨及ビ正中神經分布部ノ  
麻痺ヲ起シ)第三期ニ至リテハ下肢ノ痙性麻痺瞳  
孔縮小、延髓症狀等ヲ起ス

項部強硬ナシ

項部強硬アリ劇甚ナル項痛及ビ壓迫ヲ受ケタル神  
經區域ノ放散痛アリ

括約筋麻痺、痔瘡アリ

上肢ノ皮膚ニ於ケル營養障害(匍行疹天疱瘡)

### 慢性頸部脊髓炎

*Myelitis cervicalis chronica.*

知覺障害アリ(Parasthesie)ヲ終始存在ス

### 筋萎縮性側索硬化

*Sclerosis lateralis Amyotrophica.*

知覺障害ハ只初起ニ之レヲ見ルノミニン經過中

筋萎縮不整ニ來ル而ノ末期ニ至リ初メテ之ヲ呈ス  
下肢ニ波及スルハ括約筋麻痺ヲ發ス  
皮膚ノ營養障害ヲ來シ易シ

筋萎縮性側索硬化(第六圖)

*Sclerosis lateralis amyotrophica.*

初起ノ症候ハ上肢ノ痙性運動麻痺ニシテ筋萎縮著  
シカラズ  
筋ノ萎縮手ノ小筋ニ止マラズ前膊上膊モ同時又  
ハ速カニ侵サレ其萎縮部廣汎ナリ

ニハ來ラズ

病初ヨリ四乃至五月ヲ經レハ筋肉群集性ニ萎縮ス  
括約筋ハ害ヲ被ラズ  
皮膚ノ營養障害ヲ來サズ

進行性筋萎縮(第七圖)

*Atrophia muscular progressiva (Duchenne-  
Arn.)*

初起ノ症候ハ主トシテ筋肉萎縮ニ強硬若クハ拘  
攣ナク麻痺モ亦筋萎縮ト平行ス  
初メハ大抵右側ノ拇指球ヨリ萎縮ヲ始メ小指球ニ  
及ボシ骨間筋、蟲襠筋等ヲ侵シ前膊ヨリ上膊ニ至  
ル稀レニハ三稜筋ノ萎縮前膊筋ノ萎縮ニ先ツテア  
リ

病肢ハ強硬ヲ來シ遂ニ持續性拘攣ニ陥ル之ガ爲メ

上肢ハ屈曲シ下肢ハ伸展ス(第八圖ヲ見ヨ)

下肢筋肉ノ萎縮ハ稀レナレモ若シ之レアルハ多  
數ノ筋肉同時ニ侵サル

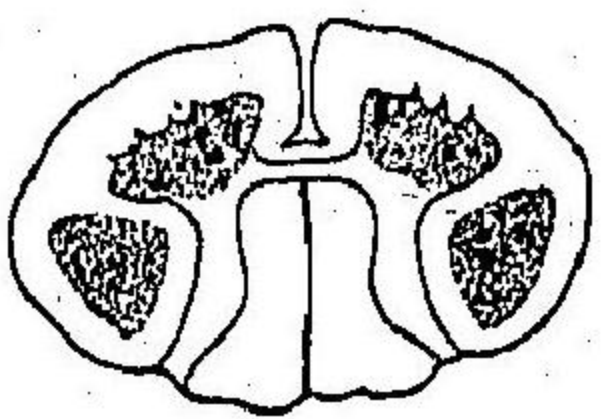
腱反射亢進シ足現象ヲ呈ス

不良ノ轉歸ヲ取り一年乃至三年ヲ經テ延髓球麻痺  
ノ症狀ニテ倒ル

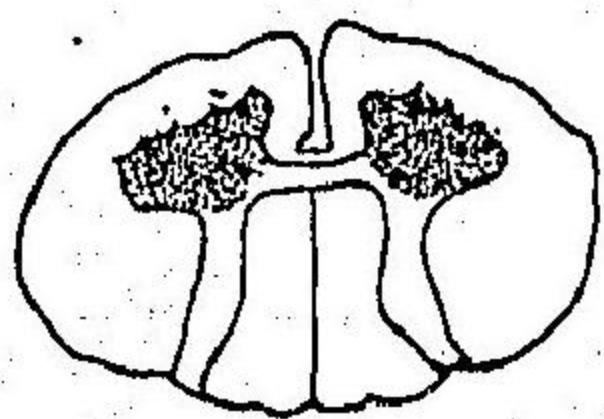
電氣反應ハ久シクアリ

筋肉纖維性攣縮ハ兩病共ニアリ知覺異常ハ兩症共ニ之レナシ

第六圖



第七圖



第六圖ハ筋萎縮性側索硬化ニ於

テ病變スル部分(前角及側索)

第七圖ハ進行性筋萎縮ニ於テ病

變スル部分ヲ示ス(前角)

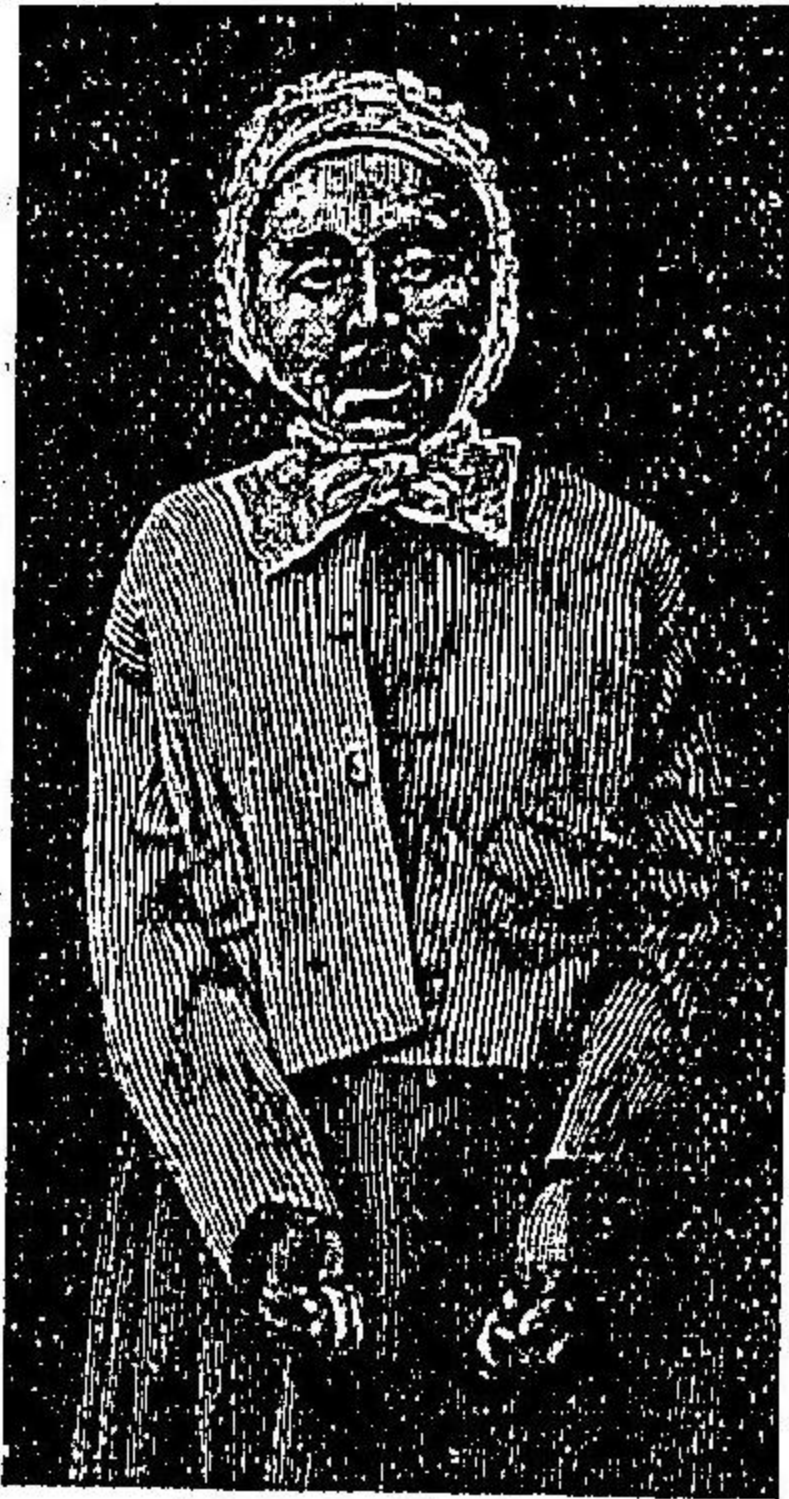
強硬又ハ拘攣ヲ呈セズノ筋肉柔軟ナリ

下肢ニ於ケル萎縮モ亦一筋ヨリ他筋ニ至リ其發生  
徐々ナリ

腱反射却テ減退シ足現象ナシ

經過緩慢ナレモ進行性ニシテ不良八乃至十五年內  
ニ死ス(球麻痺又ハ偶發病ニ由ル)

電氣興奮性漸々減退シ變性反應ヲ呈シ或ハ全ク消  
失ス



筋萎縮性側索硬化ニ罹レル老婦ニシテ既ニ延髓ノ症狀ヲ起セル者驚愕セルガ如キ面貌鼻唇溝深クシテ口ハ半開キ手ハ拘攣シテ筋肉ハ瘦削セリ(シヤルモール氏所集)

筋性進行性筋萎縮

〔エルブ〕氏幼者「ランツァー・シ・ヂヤエリン」氏筋萎縮及ビ假性肥大  
*Dystrophia muscularis progressiva* (Erb.)  
軀幹殊ニ肩部、上膊ノ筋肉初メ萎縮シ遂ニ四肢ノ筋肉ニ及ボス

脊髓性進行性筋萎縮

*Atrophia muscularis progressiva* (Duchenne-Aran.)  
四肢殊ニ手ノ小ナル筋肉即チ拇指球、小指球、骨間筋(稀ニハ三稜筋)ニ初メ萎縮ヲ來シ然ル后軀幹ニ

萎縮若クハ假性肥大ヲ呈スル筋ハ電氣反應減退スルモ變性反應ヲ呈スルコトナシ  
筋肉ハ硬固ニシテ緊張シ彈力ヲ有ス而シテ纖維性痙攣ナシ

眞性肥大若クハ假性肥大ヲ呈シ萎縮ト共ニ存ス  
少年期ニ來リ二十歳ヲ超レバ殆ンド之ヲ見ズ

延髓症狀ヲ發スルコトナシ

兩者共ニ知覺異常及ビ括約筋障害、皮膚營養異常ヲ呈セズ膝反射ハ兩者ニ於テハ筋萎縮性側索硬化ニ於ケルガ如ク亢進セズ却テ減退ス

附錄 筋性進行性筋萎縮ヲ分ツテ左ノ三種トナス

及ボス

萎縮筋ハ不全若クハ完全性變性反應ヲ呈ス

筋肉柔軟ニシテ弛緩シ著明ノ纖維性痙攣アリ

毫モ筋肉肥大ヲ呈セズ

年齢ヲ問ハズト雖モ多クハ成年期ニ來リ三十歳后ニ發スルコト少ナカラズ

末期ニ至レバ延髓症ヲ發ス

假性肥大

Pseudohypertrophia.

筋萎縮ハ背腰部及ビ下肢殊ニ大  
腿ニ始マリ脊椎前方ニ彎曲シ歩  
行蹣跚トナレモ萎縮セル筋ハ却  
テ肥大セルノ觀ヲ呈シ臀部大腿  
及ビ腓腸部突出ス

「エルブ」氏幼者筋萎縮

Atrophia muscularis  
juvenilis (Erb.)  
小児の萎縮

身体上部ニ於テハ始メ大胸筋、  
小胸筋、僧帽筋、闊背筋、前鋸筋、  
菱形筋、薦骨腰筋、長筋、三頭伸  
筋ヲ侵シ下肢ニ於テハ臀筋、四  
頭股筋、前脛骨筋及ビ腓骨筋ヲ  
侵ス

ランゾーシ、デヂェリン  
氏筋萎縮

Form Landouzy-Dejerine  
Type facio-scapulo-humeral.

筋萎縮顔面筋ヨリ始マル後チ肩  
胛上膊背部及ビ大腿ニ至ル

此三者共ニ遺傳性又ハ一家族中ニ發シ恐クハ同一ノ疾病ナル可ク且ツ屢々三者相  
混合セル者ヲ見ルコトアリ  
又別ニ**神經性筋萎縮**(Neurotische Muskelatrophie)ト稱スル者アリ亦一家族中ニ發シ  
且ツ遺傳シ萎縮ハ足筋及ビ腓腸ヨリ始マリ次デ小手筋及ビ前膊ノ伸筋ヲ侵ス纖維  
性攣縮、腱反射消失、電氣反應減退等アリ

急性脊髓前角炎(小兒脊  
髓麻痺)

Polomyelitis anterior acuta.

熱發スレモ一二日ニシテ解熱ス  
ル者多シ

筋萎縮アリ  
神經及ビ筋肉電氣興奮性消失  
知覺障害ナシ

反射機消失  
解熱后腦神經ノ症候ヲ呈スルコ  
トナシ

多發神經炎

Neuritis multiplex.

熱發ス(三十九度乃至四十度)脾  
臟腫大ス

筋萎縮アリ  
神經及ビ筋肉電氣興奮性消失  
始メハ疼痛、筋肉及ビ神經ノ壓  
痛アリテ后ニハ知覺脫失ス

反射機消失  
腦神經ノ症候ヲ呈スルコト屢々之  
アリ(動眼神經、顔面神經、迷走  
神經(脈搏頻數)等ニ於テ)  
皮膚ノ血管運動神經及ビ營養神

急性上行性脊髓麻痺

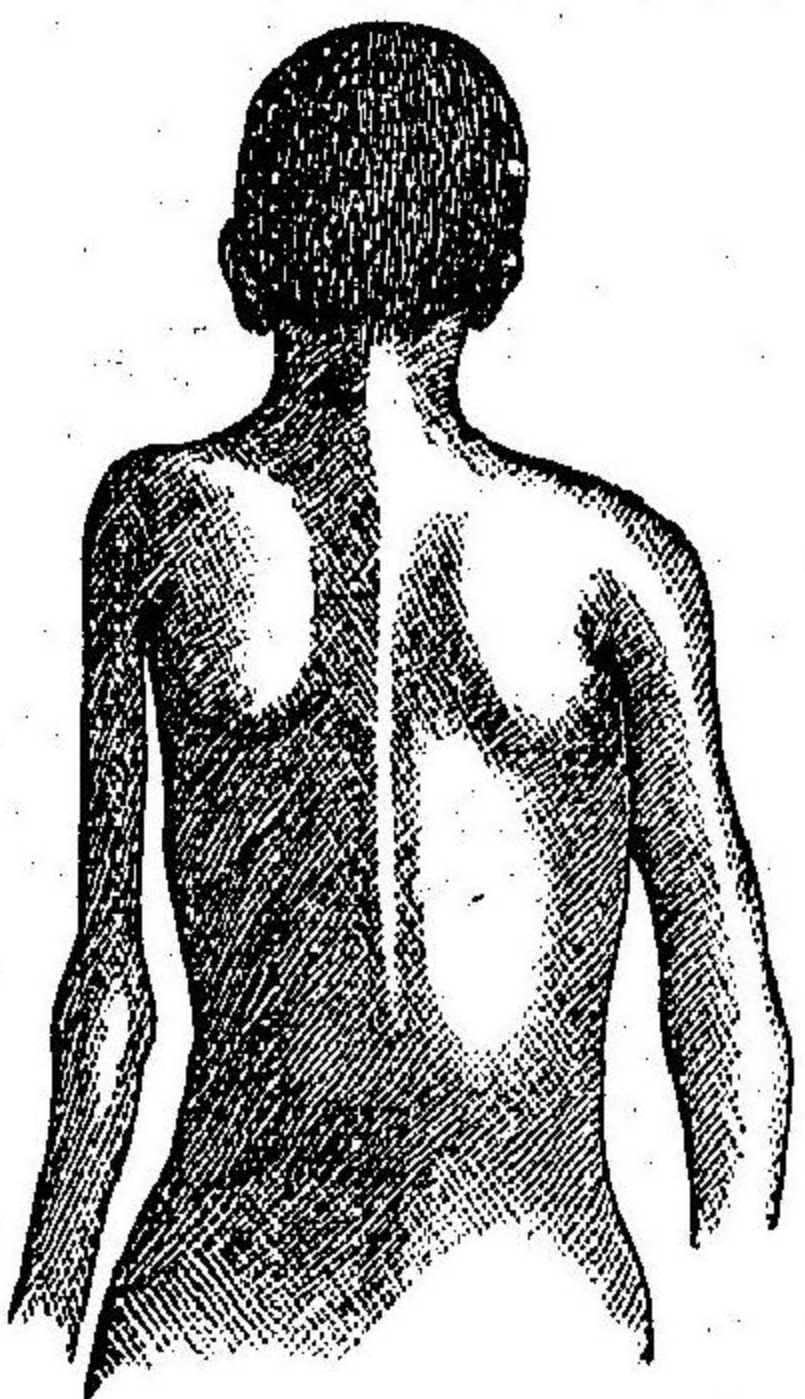
Paralysis ascendens acuta.  
(Landry.)

熱發ス(三十九度乃至四十度)脾  
臟腫大スルコトアリ

筋萎縮ナシ  
神經及ビ筋肉電氣興奮性アリ  
知覺障害ナシ

反射機減退  
脊髓症狀ノ後ニ延髓症狀ヲ呈ス  
(言語、咽下ノ障害等)

經障害アリ



第九圖

痙性脊髓麻痺

Paralysis spinalis spastica.

無力及び強硬アリ是レ同時ニ發シ乙者ノ偏勝スルヲ見ル  
漸々發生ス

十數年前左側ノ脊髓前角炎ニ罹リタル患者  
筋萎縮ノ著シキヲ見ル  
(「ダマシ」氏所集)

續發性側索硬化ノ慢性橫斷性脊髓

炎后ニ發スルモノ

Secundäre Seitenstrangsklerose.

截癱アリ次デ強硬ヲ發ス  
迅速ニ發生ス

知覺障害ナシ

膀胱直腸ニ違常ナシ

麻痺性拘攣ノ側索硬化ニ因ルモノ

麻痺后徐々ニ發生ス  
知覺障害ナシ  
下腹ニ變ナシ  
多クハ兩側ノ下肢ニ肉拘攣ヲ見ル  
膝現象及足現象アリ  
皮膚反射アリ  
治ニ就クアアルモ徐々ナリ

知覺障害アリ

膀胱直腸ノ障害アリ

麻痺性拘攣ノ歇斯的里ヨリ來ル者

急ニ發シ殊ニ歇斯的里發作后ニ來ル  
半側知覺麻痺及び五官障害アリ卵巢痛アリ  
尿閉アリ下腹膨滿、尿停滯アリ  
上肢モ亦侵サル  
足現象著明ナラズ  
知覺脫失側ニ於テ皮膚反射消失若クハ減退ス  
非常ノ精神感動后忽然輕快スルヲアリ



續發性偏側圓錐索ノ硬化ニ因スル痙攣性麻痺  
脊髄性原因ヨリ來ルモノ

運動麻痺ヲ發シタル後徐々ニ筋ノ強硬及ビ拘攣ヲ來シ上肢殊ニ著シ  
皮膚反射(提舉筋、下腹反射)減退若クハ消失ス  
腱反射亢進ス  
麻痺側ノ知覺脫失著シカラズ

運動麻痺ノ後速カニ強度ノ拘攣ヲ續發シ殊ニ下肢ニ著シ  
皮膚反射依然タリ  
腱反射亢進ス  
脊髓半側全部疾病ニ罹ルキハ初メテ運動麻痺ト反對側ニ知覺脫失ヲ來ス而シテ運動麻痺側ニハ知覺過敏アリ(Brown-Séquard'sche Lähmung)(ハロンセカール氏半側麻痺)

多發電性硬化

Sclerosis multiplex  
cerebro-spinalis

震顫ハ運動ヲ企ツル時ニノミ發シ安靜時ニハ來ラ

震顫麻痺

Paralysis agitans.

安靜時ト雖モ震顫休止スルヲナク只減少スルノミ

ス(Intensionszittern.)

震顫ハ運動時ニ増劇シ遂ニ震惕ニ變ズ  
往々頭部モ共ニ震顫スルヲアリ

眼球震盪症アリ

歩行ハ酩酊者様若クハ痙攣性歩行ナリ

腱反射亢進ス

眩暈アリ腦症狀アリ

幼年ヨリ四十歳迄ノ間ニアリ

一過性ノ知覺異常アリ

言語緩慢ナリ(Sandriend.)

運動ヲ企ツル時ト雖モ敢テ増劇セズ却テ止ムヲアリ

運動ハ終始平等ナレトモ大ナラズ

頭部ノ震顫ハ罕レナリ

安靜時ニ於テ手ト屈曲セル指トノ形狀ハ恰モ物ヲ捻ルガ如シ(第十八圖ヲ見ヨ)

眼球震盪症ナシ

歩行ノ際身体ヲ前方ニ屈シ恰モ疾走スルガ如キ体位ヲ取ル

腱反射亢進セズ

眩暈ナク腦症狀ナシ

高齢ニシテ四十乃至六十歳ノ者ニ多シ

知覺障害ナシ時々疼痛アルノミ

言語障害ナシ

卒中様又ハ癩癩様發作アリ

### 多發竈性硬化

Sclerosis multiplex  
cerebro-spinalis.

震顫ハ運動ノ目的ニ近クニ從ヒ益々増加スルモ常ニ一定セリ  
安靜時ニハ震顫缺如ス

不全麻痺アリ

眼球震盪症、複視アリ

同上ノ發作ナシ

### 舞蹈病 Chorea.

運動ハ不整大小不同ニ目的ニ協ハザル奇異ノ不隨意運動ナリ震顫ト異ナリ  
不隨意運動ハ安靜時ト雖モ休止セズ睡眠中ニハ止ム不隨意運動ハ顔面舌及ヒ四肢ニ發ス  
麻痺症狀ナシ(稀ニハ之レアリ)  
眼球震盪症及ヒ複視ナシ  
屢々心瓣膜病及ヒ關節僂麻質ヲ呈ス

### 多發竈性硬化

Sclerosis multiplex.

### 脊髓勞

Tabes dorsalis.

不全麻痺ヲ呈シ後ニハ強硬ヲ來ス(痙性拘攣)  
歩行ハ痙性ニシテ脊髓勞ニ比スレバ足ヲ舉グルコト容易ナラズ

眩暈アルガ爲メ顛倒シ易シ然レモ眼ヲ閉ルモ運動ニ變化ヲ來スコトナシ

運動ヲ企ツルルハ震顫ヲ來スニモ拘ラズ能ク其目的ヲ達スルヲ得且其震顫整然タリ

言語障害アリ(言語緩慢ナリ)

眩暈及ヒ眼球震盪症アリ

閉眼スルモ身体ノ位置及ヒ運動ヲ判知ス

知覺障害ハ一過性ナルコト多ク每常不全麻痺ヲ伴フ

運動麻痺ナク只共同運動失調ノミヲ呈ス(Axial.)  
歩行ノ際足ヲ前上方ニ舉上シ投擲狀運動ヲ呈ス

眼ヲ閉ツルルハ動搖シ或ハ倒仆ス是開眼シテ物体ヲ注視スルニ非ザレバ歩行シ能ハザルガ爲メナリ

運動ヲ企ツルルハ屢々其目的ヲ達スル能ハズ且其運動不整ニシテ秩序ナシ

言語障害ナシ

眩暈及ヒ眼球震盪症ナシ

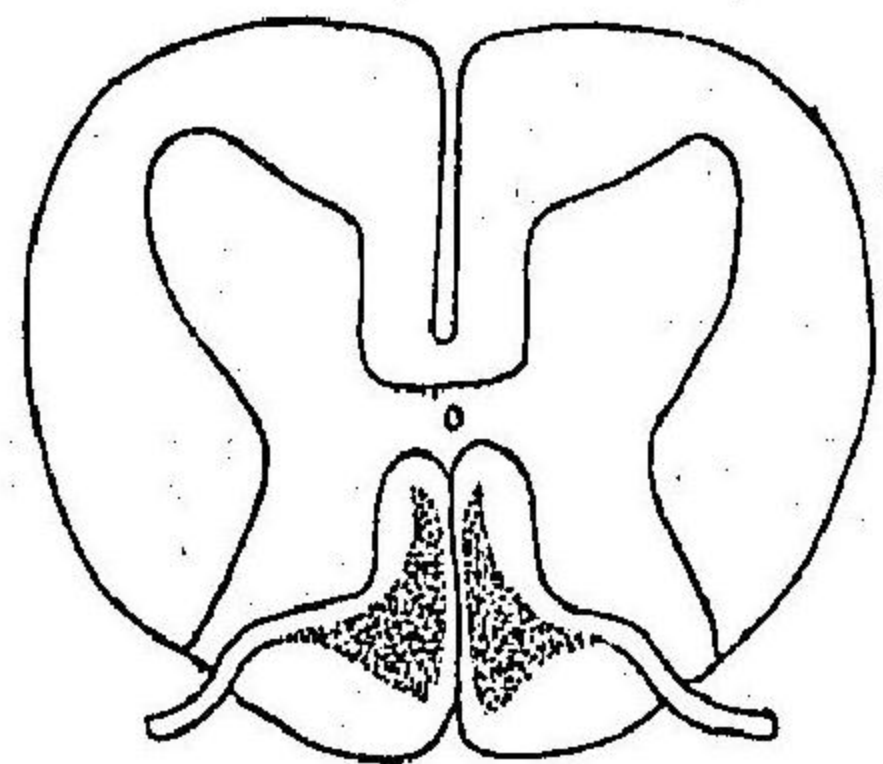
脊髓勞ニ在テハ然ラズノ靜止的及ヒ運動的失調アリ

初期ニ在テハ電擊痛ヲ來シ后チ足蹠及ヒ下腿ノ知覺脫失ヲ起ス然レモ下肢ノ不全麻痺ハ末期ニ非レバ來ルコトナシ

多クハ膝反射甚シク亢進シ膝蓋腱反射ハ腰髓部侵  
サレタルキノミ消失ス  
瞳孔ハ散大又ハ縮小スルノミ

膝蓋腱反射消失ス

瞳孔縮小シ光線ニ反應ナク遠近ヲ見ルキノミ反應  
アリ(アルザル、ロバートソン氏症候)



脊髄勞ノ初期腰  
髓部ニ於ケル變  
化脊髄後索ノ根  
帶ハ硬變セリ(フ  
レクシロ氏ニ從  
フ)

第十圖 脊髓勞 診

脊髄ノ症候

知覺障害

知覺過敏

知覺異常

背痛

坐骨神經痛

皮膚痛

電擊様

速ニ消失スル疼痛

膀胱ニ於ケル發作性疼痛

腸

帶狀感覺

足蹠及足背ノ知覺鈍麻、寒冷ノ感覺

膝反射減退

喉頭症、痙攣性咳嗽

穿通性

灼熱性

速ニ消失スル疼痛

腸

帶狀感覺

足蹠及足背ノ知覺鈍麻、寒冷ノ感覺

膝反射減退

喉頭症、痙攣性咳嗽

斷症的狀概略

大野武氏「ルテメウシ」ニ從フ

第一期即前驅期  
又疼痛期  
Stadium.  
prodromarum  
s. neuralgicum.

頭部症候

官能及ヒ反射機障害

排尿困難

生殖器官能ノ刺戟性衰弱

輕度ノ括約筋失禁

營養ノ障害

關節病

精神沈鬱シ變換シ易シ

精神障害

眩暈アリ

頻回ノ暫時性卒中様發作

視神經衰弱

弱視、視野狹隘トナリ遂ニ失明ス(視神經萎縮)

眼筋神經ノ衰弱

複視、斜視、上眼瞼下垂症

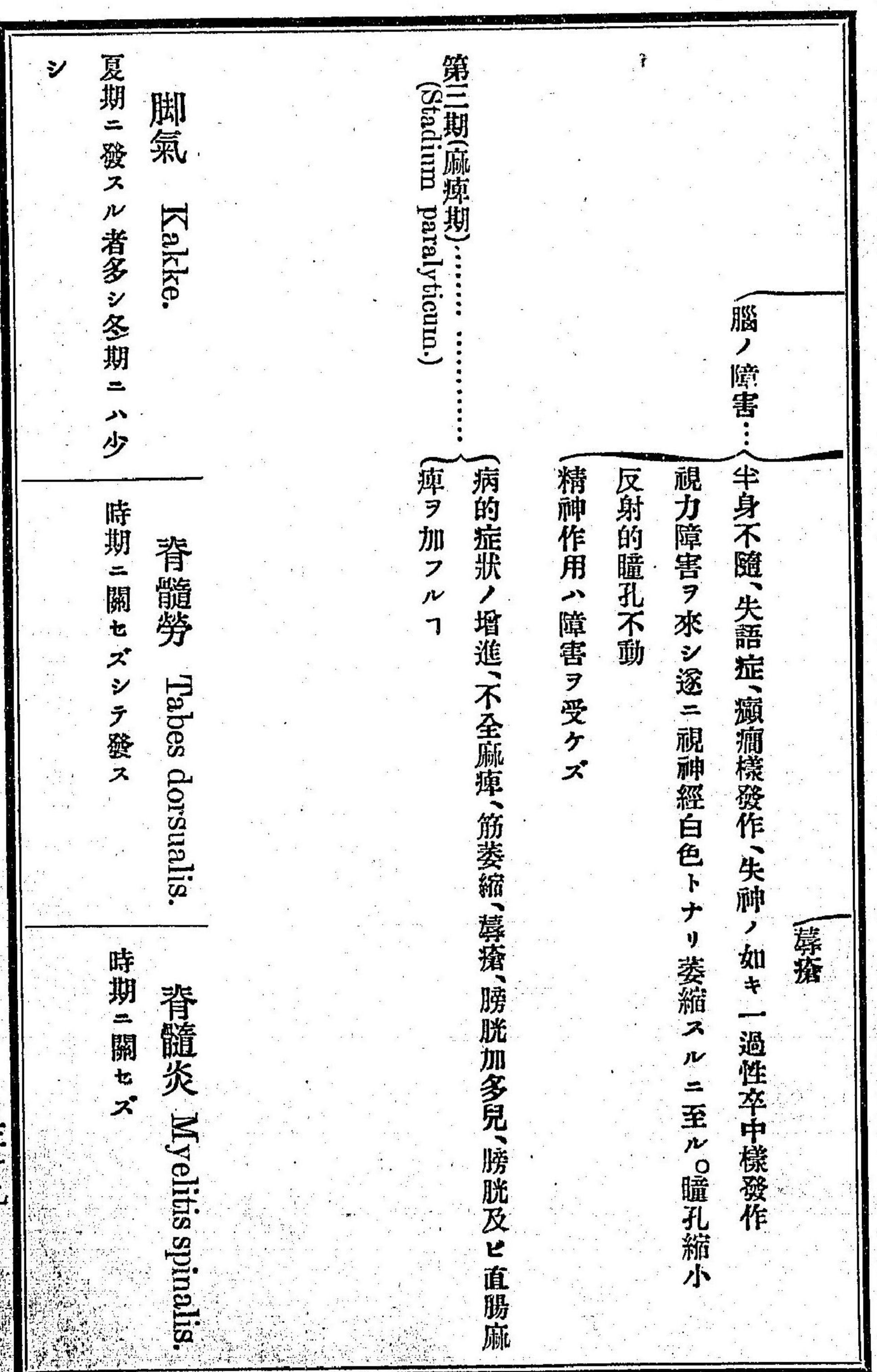
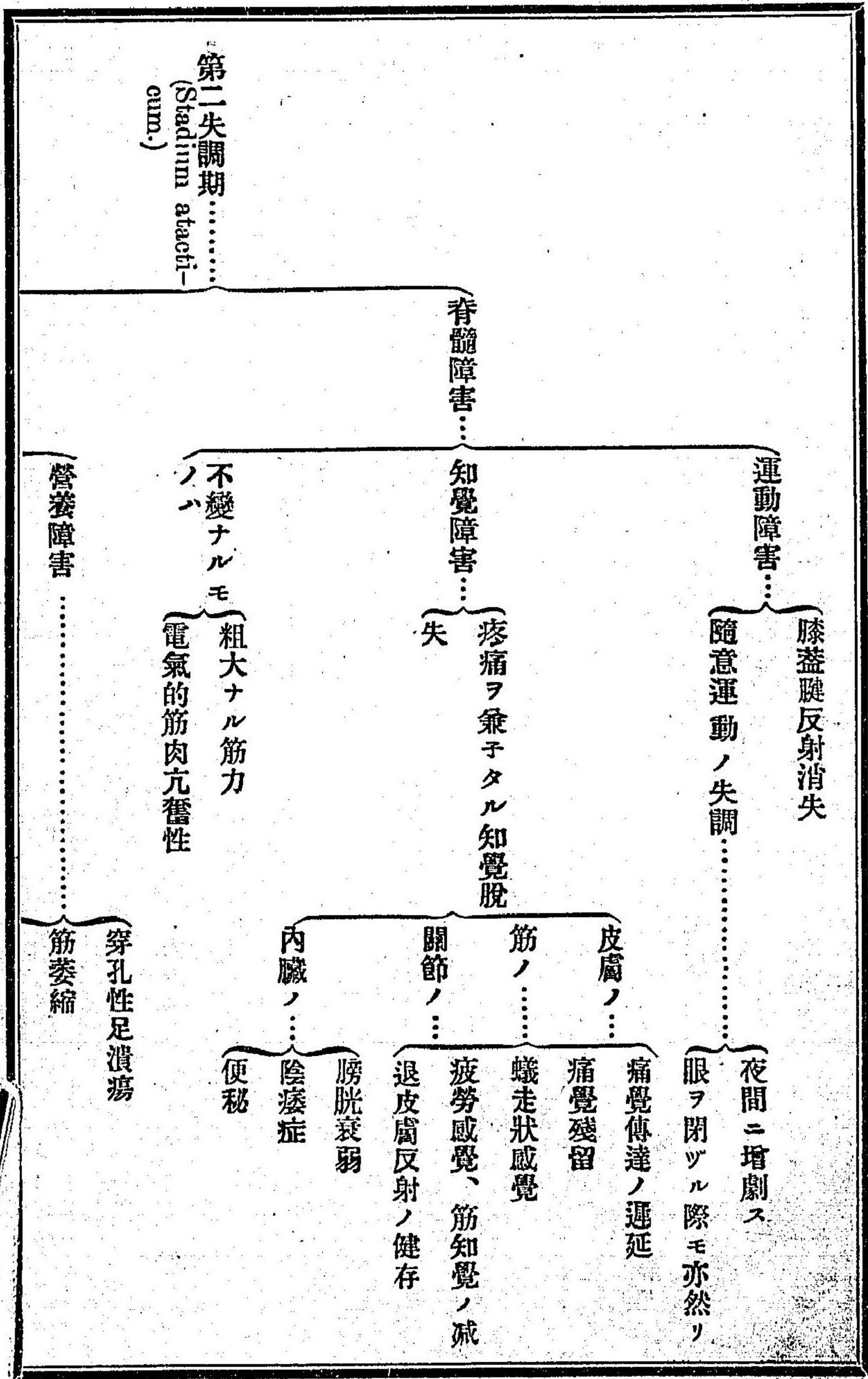
瞳孔障害

一時性調節機麻痺

知覺障害

舌ノ偏側萎縮

偏頭痛、顔面痛



<p>知覺異常ハ下腿ノ前面又ハ足背ニ發シ上方ニ進ミ大腿及ヒ腹部ニ達シ胸部及ヒ頸部ヲ侵サザルニ指尖及ヒ口圍ニ知覺違常ヲ來ス</p> <p>電擊様疼痛ナシ</p> <p>瞳孔ニ異常ナシ</p> <p>視神經萎縮ナシ</p> <p>膝蓋腱反射初期及ビ恢復期ニハ亢進シ其他ニ於テハ消失ス</p> <p>軟弱性運動麻痺ヲ起ス</p> <p>腓腸筋ノ壓痛アリ</p>	<p>知覺異常ハ足趾ヨリ始マルヲ多ク上方ニ向ツテ進ムモ急ニ指尖口唇等ヲ侵サズ</p> <p>初期ニ電擊様疼痛アリ</p> <p>瞳孔縮小シテ光線ニ對スル反應ナク遠近ヲ見ルルルノミ縮開ス</p> <p>視神經ニ著シキ萎縮ヲ來シ乳頭白色ヲ呈ス</p> <p>腱反射始メヨリ消失ス</p> <p>運動失調ヲ來ス</p> <p>ナシ</p>	<p>知覺異常ハ病竈ヨリ以下ノ部分ニノミ限局ス</p> <p>疼痛ハ只壓迫性脊髓炎ニノミア</p> <p>ナシ</p> <p>ナシ</p> <p>腱反射亢進ス(只病竈ノ腰椎ニアルルハ然ラズ)</p> <p>痙性麻痺アリ</p> <p>ナシ</p>
---	--	---

<p>歩行ノ際足尖下垂シテ地上ニ膠着スル者ノ如シ</p> <p>膀胱及ビ直腸障害殆ンドナシ</p> <p>電氣變質反應ヲ呈スルニ至ル</p> <p>心悸亢進、食欲減少、浮腫等アリ</p>	<p>歩行ノ際足ヲ前上方ニ舉ゲ足趾ヲ以テ地ヲ踏ム</p> <p>膀胱及ビ直腸障害アリ</p> <p>通常然ラズ</p> <p>穿孔性足趾潰瘍、關節腫脹等アリ</p>	<p>足尖ニテ地ヲ踏ミ足趾殆ンド地ヲ觸レズ(痙性歩行)</p> <p>アリ</p> <p>病竈ノ位置ニヨリ差異アリ</p> <p>痔瘡ヲ起シ易シ</p>
---	--	--

脊髄勞

Tabes dorsualis.

Atkins

運動失調アリ

腱反射消失ス

電擊様疼痛及ビ知覺麻痺アリ

視神經萎縮ニロベルトソン氏症狀、眼筋麻痺、膀胱

「フロリードライヒ」氏病

Ataxia hereditaria, Friedreich'sche Krankheit.

同上

同上

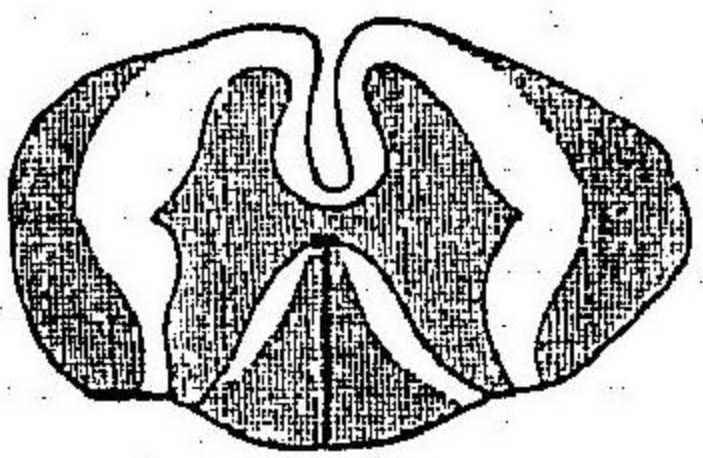
知覺異常ナシ筋覺モ亦存ス

同上ノ諸症ナシ

直腸障害、營養障害等アリ  
眼球震盪症、言語障害等ナシ

同上ノ障害アリ

第十圖



「フリードライヒ」氏病ニ於ケル脊髄  
ノ變化(后索、圓錐側索及ヒ小腦側  
索ノ變化ヲ示ス)

脊髓性運動失調(脊髄勞)

Spinale Ataxie.

知覺障害アリ  
電擊様疼痛アリ  
背痛又ハ顔面痛アリ

小腦性運動失調

Cerebellare Ataxie.

知覺障害ナシ  
之レナシ  
后頭部ニ壓重ノ感アリ

胃痛アリテ嘔吐ス其他内臓ノ障害アリ  
弱視及ヒ失明アリ視神經乳頭ノ白變ニ由ル

嘔吐ハ頻發スルモ胃痛又ハ内臓症ナシ

眞ノ眩暈ニアラズ

眩暈甚シクノ顛倒スルニ至ル殊ニ后方ニ倒ル加之  
横臥ノ際ト雖モ眩暈ヲ發ス

停立スルキハ身体動搖ス殊ニ眼ヲ閉ツレバ著明ト  
ナル是レ自レガ佇立セル感覺判然タラザルニ由ル  
横臥ノ際ニハ眩暈ヲ發スルコトナシ  
運動失調性歩行アリテ常ニ眼力ヲ歩行ニ注グ  
横臥時ニモ亦運動失調ヲ存ス

酩酊性歩行アリト雖モ眼力ヲ要セズ  
横臥スルキハ毫モ失調ヲ呈セズ仰臥ノ際下肢ヲ運  
動スルニ迅速ニシ且ツ頗ルカラアリ

中樞性麻痺(腦及脊髄)

末梢性麻痺

Centrale. Lähmung.

變質反應ナシ(但シ脊髓灰白質前角及ヒ腦神經核又ハ中樞中ニ在ル末梢神經ノ經過中ニ病竈アルキハ此限ニ非ズ)隨テ麻痺部ノ電氣的反應ニ違常ナシ又久シク筋ノ瘦削ヲ呈セズ

運動及ビ知覺麻痺ハ各々獨立シ又一部ニ局スルヲ得

麻痺若シ廣汎ナルキハ半身不遂截癱等トナル

反射ハ尋常ニシテ亢進スルヲ見ズ同伴運動ヲ呈スルヲアリ

麻痺ノ他同時ニ精神障害、頭痛、眩暈、視神及ヒ聽神ノ障害、眼底變常、失語症、膀胱及ビ直腸ノ障害等アリ

Peripherische Lähmung.

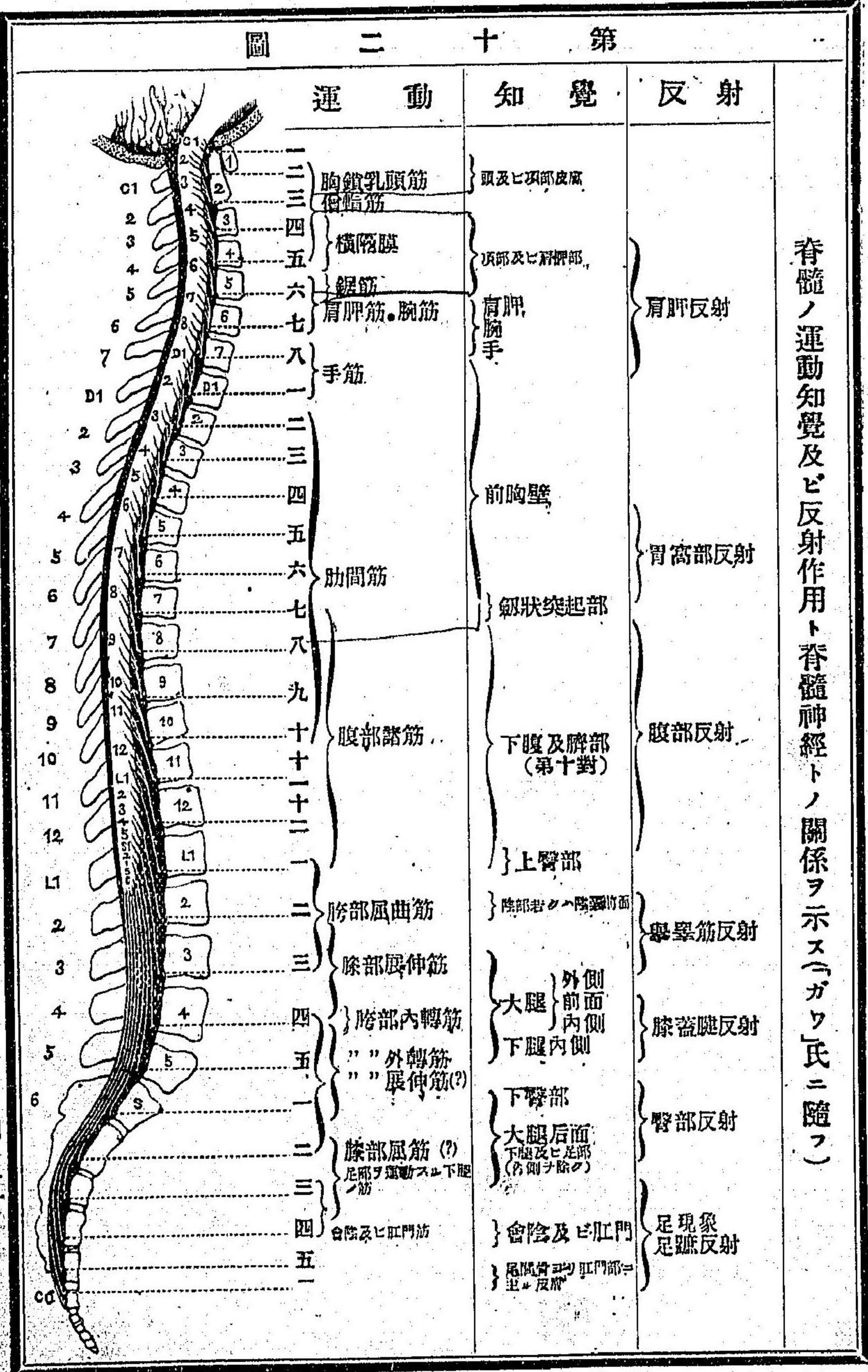
變質反應及ビ筋ノ瘦削アリ

末梢神經若シ運動及ビ知覺ノ兩纖維ヲ有スルキハ運動麻痺ニ知覺麻痺ヲ兼ヌルモ然ラザルキハ各自ニ發生シ麻痺ハ神經ノ分布ニ相一致ス

腱反射消失シ且ツ同伴運動ナシ

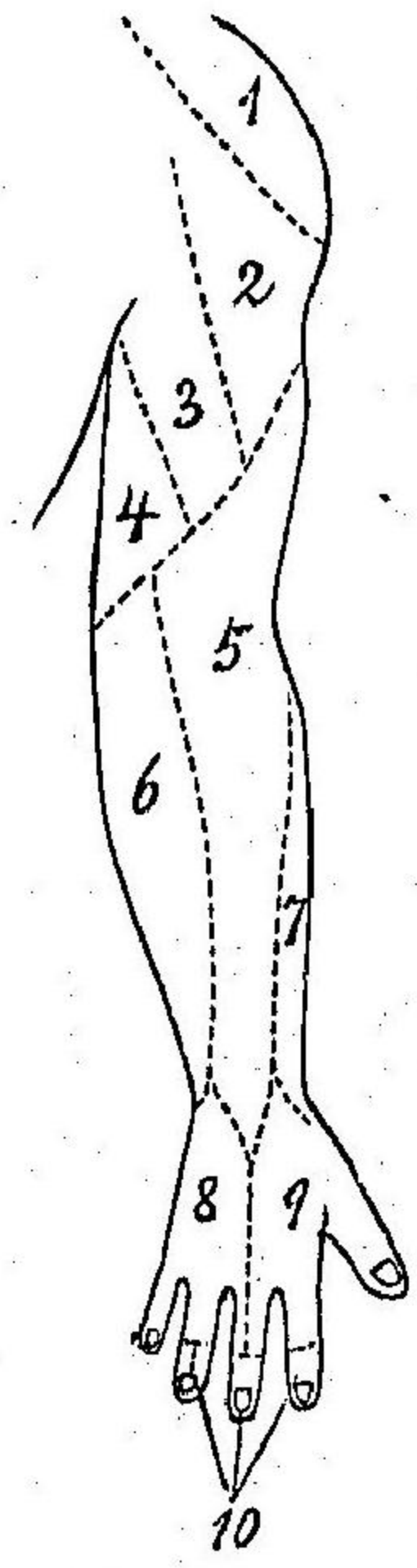
上記ノ諸症ハ純粹末梢性麻痺ニ欠如ス

脊髓ノ運動知覺及ビ反射作用ト脊髓神經トノ關係ヲ示ス(ガワ氏ニ隨フ)



左ノ四圖(第十三十四十五十六)ハ上下肢ニ於ケル皮膚神經ノ分布ヲ示ス

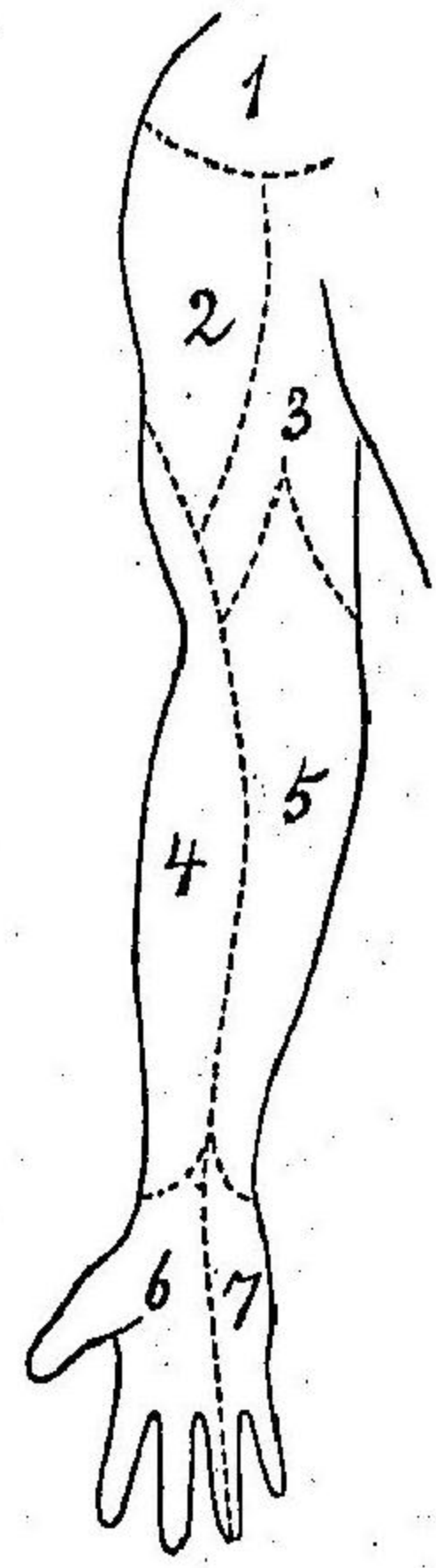
圖三十第



第十三圖

- 1 鎖骨上神經
- 2 腋窩神經
- 3 後上肢神經
- 4 後下肢神經
- 5 內皮神經
- 6 中皮神經
- 7 外皮神經
- 8 尺骨神經
- 9 橈骨神經
- 10 正中神經

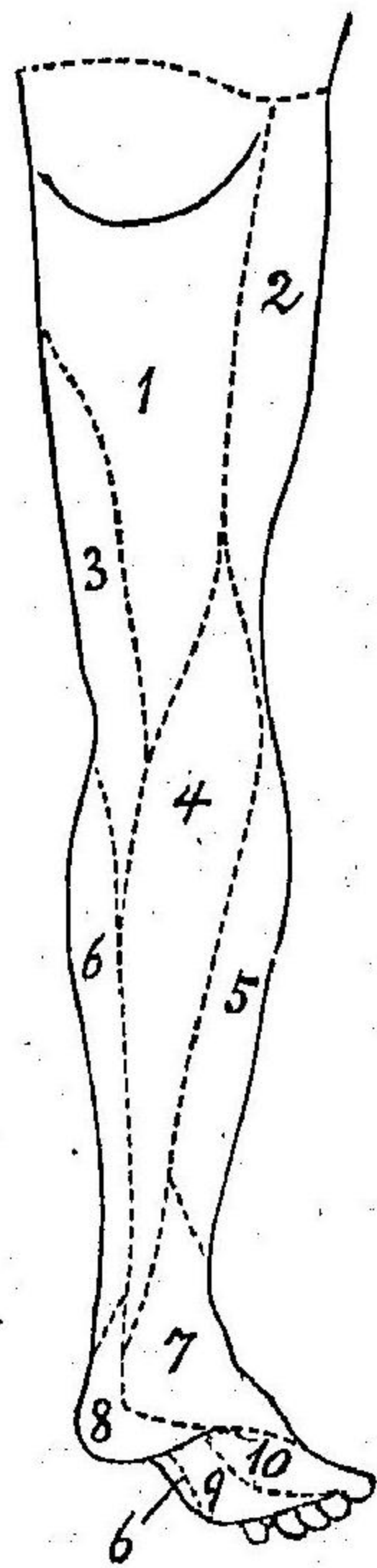
圖四十第



第十四圖

- 1 鎖骨上神經
- 2 腋窩神經
- 3 內皮神經
- 4 外皮神經
- 5 中皮神經
- 6 正中神經
- 7 尺骨神經

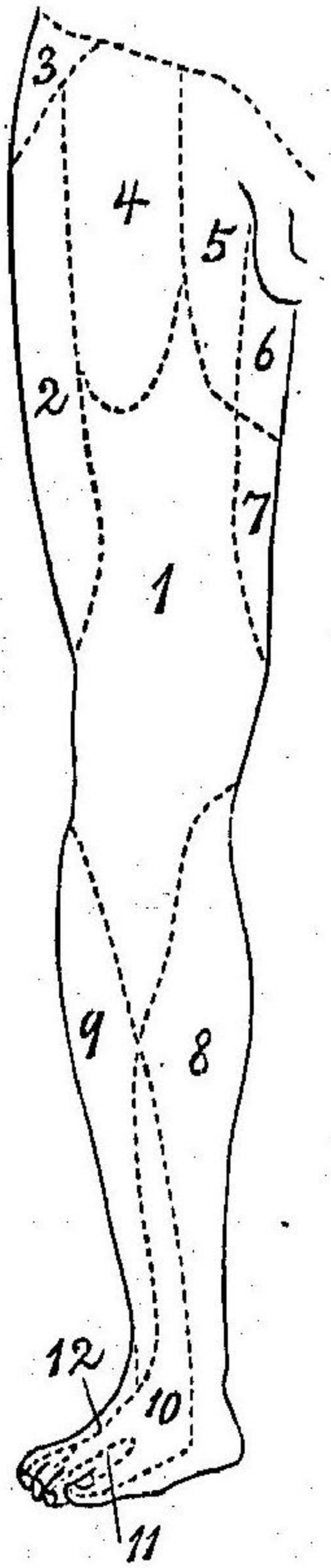
圖五十第



第十五圖

- 1 後皮神經
- 2 外皮神經
- 3 鎖閉神經
- 4 內后皮神經
- 5 腓骨吻合神經
- 6 蓄微神經
- 7 脛骨吻合神經
- 8 固有足趾神經
- 9 內足趾神經
- 10 外足趾神經

圖六十第



第十六圖

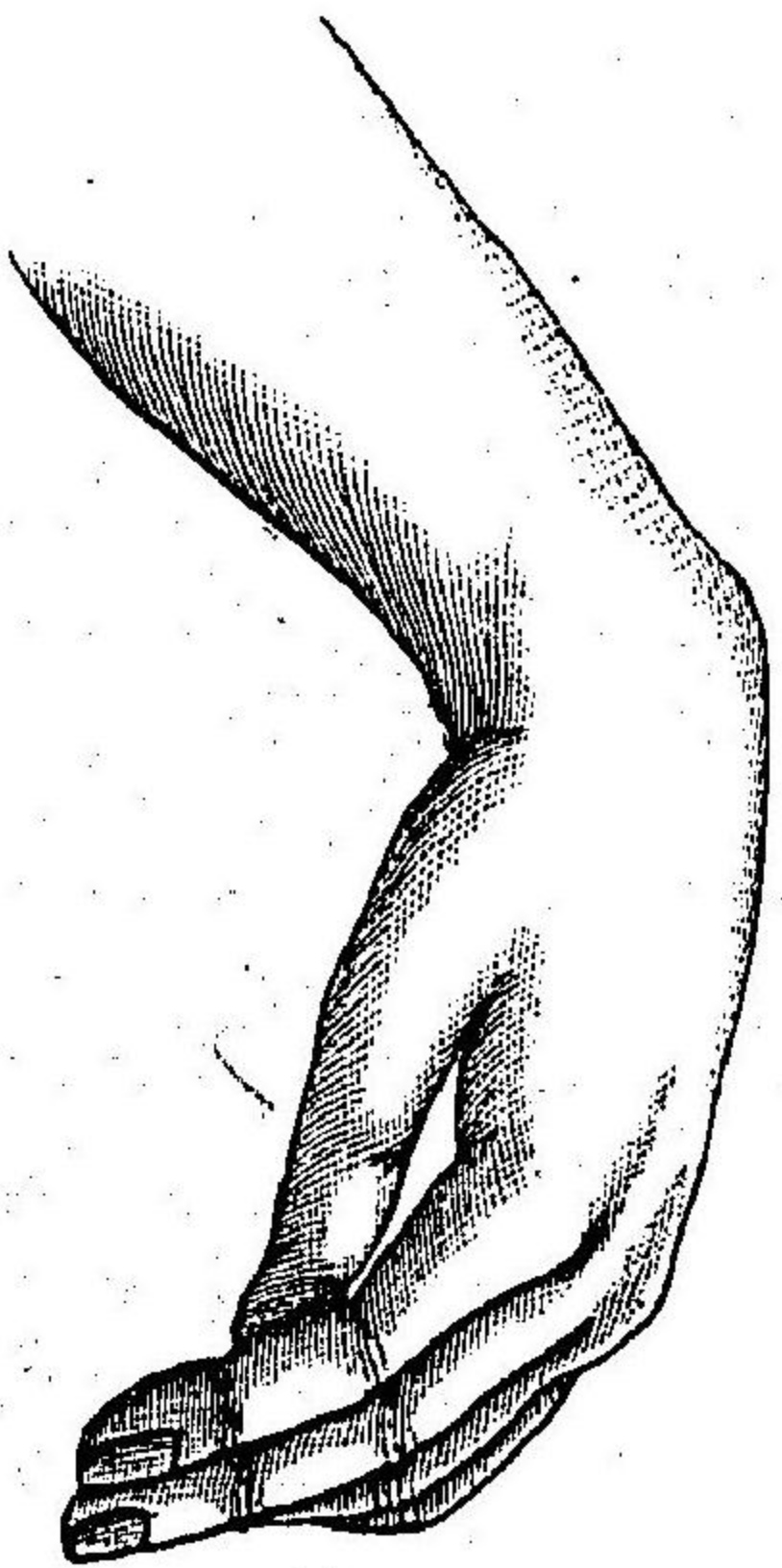
- 1 股神經
- 2 外皮神經
- 3 腸骨鼠蹊神經
- 4 腰鼠蹊神經
- 5 外精索神經
- 6 後皮神經
- 7 鎖閉神經
- 8 蓄微神經
- 9 腓骨吻合神經
- 10 淺在腓骨神經
- 11 深在腓骨神經
- 12 脛骨吻合神經



### 脊隨末梢神經ノ分布

大小後頭神經ハ后頭皮膚ノ知覺ヲ主トル(第二及第三頸神經)  
 大耳神經 耳翼、耳後及ヒ頰部ノ知覺(頸第三)  
 中下頭皮下神經 頸ノ前及ヒ側面ノ知覺及ヒ皮下頭筋ノ運動(頸第二及ヒ三)  
 鎖骨上神經 胸上部及肩胛上部ノ知覺(第十三十四圖1ノ部)  
 下後頭神經 後大小直頭筋、上下斜頭筋及ヒ項長筋ノ運動(頸第一)  
 橫隔膜神經 橫膈膜ノ運動  
 其他ノ頸神經ハ深部ノ頸項諸筋ニ分布シ斜角筋及ヒ肩胛舉筋ニ至ル  
 膊神經叢ハ第五乃至第八項椎神經及ヒ第一背椎神經ヨリ成リ左ノ神經ヲ出ス  
 肩胛背神經 菱形筋、肩胛舉筋、後上鋸筋ノ運動  
 上肩胛神經 棘上棘下筋ノ運動  
 腋窩神經 三稜筋、小圓筋ノ運動(知覺ハ第十三十四圖2ノ部)

第七十圖



橈骨神經麻痺ノ圖

肩胛下神經 肩胛下筋、大圓筋及ヒ濁背筋ノ運動  
 後胸廓神經 前鋸筋ノ運動  
 前胸廓神經 大胸筋、小胸筋ノ運動乳房上ノ知覺  
 內皮神經 中皮神經(第十三圖46 第十四圖35)  
 腋窩ノ皮膚ハ內皮神經及ヒ第二肋間神經ノ側枝ノ分布セル所ナリ  
 外皮神經 烏喙膊筋、二頭膊筋及ヒ內膊筋ノ內側纖維(知覺ハ第十三圖7 第十四圖4)  
 正中神經 廻前圓筋、廻前方筋、內橈骨筋、長掌筋、淺風指筋、深風指筋ノ一部、長風指筋、內轉拇筋ヲ除ク外ノ拇指球諸筋及ヒ第  
 尺骨神經 內尺骨筋、深屈指筋ノ一部、骨間筋、第四蟲樣筋、內轉拇筋、短掌筋及ヒ小指球ノ諸筋(知覺ハ第十三圖8 第十四圖7)  
 橈骨神經 三頭伸筋、第四肘筋、內膊筋ノ一部、廻後長筋、廻後短筋、長短橈骨筋、外尺骨筋、總指伸筋、示指及ヒ小指伸筋、長短伸  
 拇筋、長外轉拇筋(知覺ハ第十三圖9ノ部)

背神經後枝ハ背部ノ皮膚及ビ背部諸筋ニ分布ス

前枝ハ胸及ビ腹部ノ前面及ビ側面ノ知覺ヲ主トシ又其部ノ筋肉ニ分布ス(乳房内ニモ入ル)

四箇ノ腰神經ハ上臀部ノ知覺并ニ長背筋ノ運動ヲ主トルノ外尙ホ左ノ神經トナル(腰神經又ハ股神經叢)

腸骨下腹神經 腰部及ビ下腹部ノ知覺

腸骨鼠蹊神經 股鞘張筋上及ビ陰阜ノ皮膚

腰鼠蹊神經 第十六圖4ノ部

外精系神經 大腿上部内側及ビ陰囊或ハ大陰唇

外股皮神經 第十五圖2ノ部

股神經 腸腰筋、四頭股筋、縫匠筋(時トシテハ橈筋)ノ運動及ビ第十六圖18 第十五圖6ノ部ノ知覺

鎖閉神經 外鎖筋、橈筋、内轉筋、薄股筋ノ運動第十五圖8 及ビ第十六圖7ノ部

薦骨神經叢ハ第五腰椎神經及ビ第一乃至第四薦骨神經ヨリ成リ左ノ神經ヲ出ス

上臀神經 中臀筋、小臀筋、梨子狀筋、股鞘張筋

下臀神經 大臀筋

後皮神經 第十五圖1ノ部ノ知覺

坐骨神經 孖筋、内鎖筋、方形股筋、二頭股筋、半腱肌、半膜肌筋及ビ下腿、足部ノ筋

其内腓骨神經ハ 前脛骨筋、長短趾伸筋、長伸腓筋、長短腓骨筋及ビ二ノ骨間筋ノ運動ト第十五圖45 第十六圖9

脛骨神經ハ 腓腸筋、後脛骨筋、長短趾屈筋、長短趾伸筋及ビ足趾、骨間ノ諸筋

陰部痔神經 肛門部、會陰部、陰囊又ハ大陰唇ノ皮膚、尿道、陰ノ粘膜、陰莖又ハ挿孔ノ皮膚ニ分布シ骨盤底及ビ膀胱括約筋ノ運

尾閭骨神經ハ尾閭骨部ノ知覺ヲ主トル

官能的疾患

官能的疾患

扁頭痛 *Migraine, Hemicranie.*

扁側又ハ兩側ニ發スル頭部ノ發作性疼痛ニシテ終リニ望ンデハ惡心嘔吐ヲ發シ又ハ多量ノ尿ヲ分泌シテ止ムコトアリ時トシテハ顔面ノ蒼白又ハ赤色ヲ致シ五官ノ過敏瞳孔ノ散大又ハ縮小、顔筋痙攣稀ニハ眼火烟飛半視等アリ發作中ノ疼痛ハ神經痛ニ於ケルガ如ク間歇セズ持續稽留性ナリ且ツ一定ノ神經經過ニ從ハズ

震顛麻痺 *Paralysis agitans.*

震顛ハ安息時ト雖モ存在シ精神感動ニ由テ増進ス

筋肉ノ強硬アリ筋力ノ麻痺ハ甚シカラズ

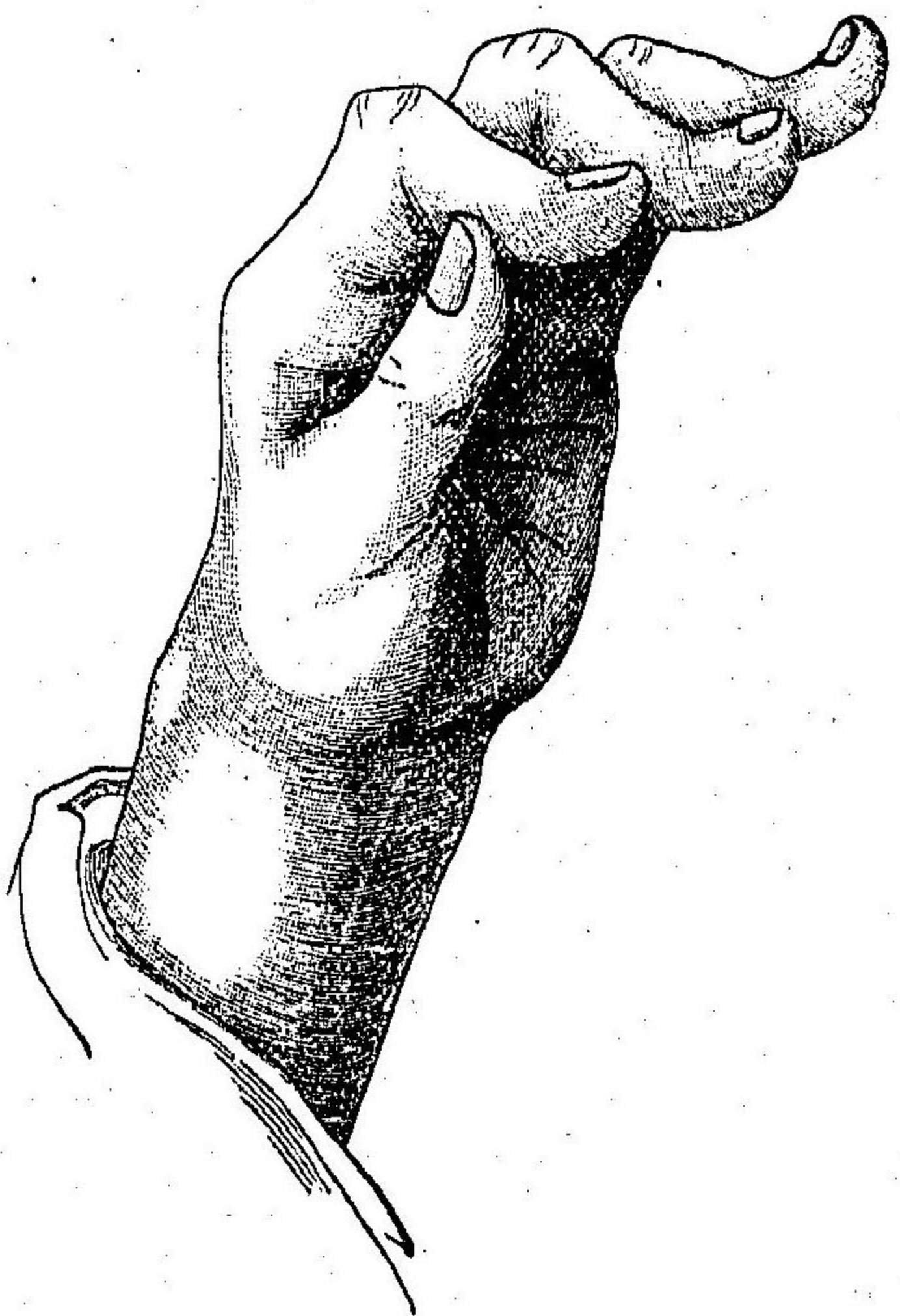
急ニ煩熱ヲ覺エ且ツ發汗シ易シ

身体前方ニ屈シ手指ハ操筆スル狀ヲ呈シ或ハ捻揉スルガ如キ觀ヲ呈シテ屈曲ス

身体ヲ前方ニ牽クキハ患者急ニ停止セントスルモ能ハズ後方若クハ側方ニ牽引ス

ルモ亦然リ概シ知覺異常ナシ(但シ少シク疼痛アル等ノミ)  
尿管ノ排泄、腱反射筋及ヒ神經ノ電氣反應等ハ常ニ異ラズ  
不安及ビ不眠ノ外精神變常ナシ

第 十 八 圖



震顫麻痺患者ノ手

舞蹈病

Chorea.

其運動不整ニシテ一定ノ秩序ナシ

齒牙變換期ヨリ春機發動期ニ來ルコト多ク殊ニ女子  
ニ多シ(其二十歳前後ニ發スル遺傳舞蹈病ヲ名ケ

テ遺傳舞蹈病ト云フChorea hereditaria)

精神沈鬱、且ツ感動シ易ク記憶力減退ス

心内膜炎及ビ關節僂麻質ヲ兼ヌ

兩側ニ來ルコト多シ

アテトーゼ Athetosis.

運動整然秩序アリ手指ニ於テ伸展、屈縮、廻前、廻  
后、集合、離散ヲ呈シ且ツ其運動緩慢ナリ

小兒ト大人トヲ問ハズ發ス

時トシテ精神痴鈍ナルコトアルモ多クハ精神異常ヲ呈セス

然ラズ

半側ノ者多シ

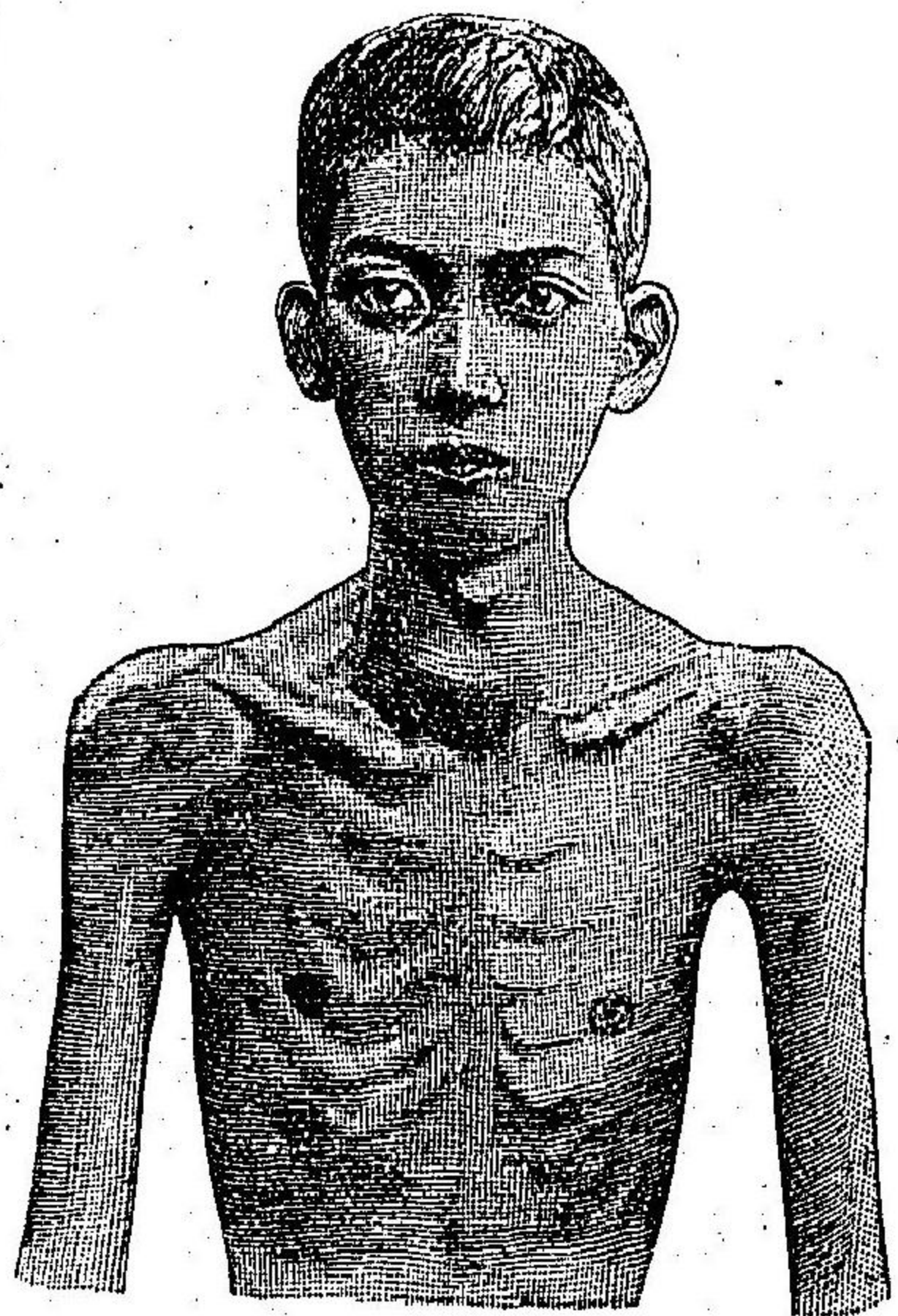
バセドウ氏病 Morbus Basedowi.

(第一)主要症候 心悸亢進 甲状腺腫大 眼球突出 震顫

(第二)副症候

消化器 嘔吐、下痢、善飢、黃疸、  
 呼吸器 咳嗽、呼吸頻數、  
 神經系 心胸絞痛症、神經痛、麻痺、グレーフエ氏症候(上眼瞼下垂不全、眼ノ輻輳運動不全、痙攣、痙攣樣發作、精神過敏  
 皮膚 白斑、蕁麻疹、色素斑、發汗、煩熱ノ感、電氣抵抗減少  
 泌尿器 尿崩、蛋白尿、糖尿、  
 生殖器 月經不順、陰痿、  
 貧血衰弱、下肢ノ浮腫(心力微弱ニ由ル)

第十圖



「バセドウ」氏病患者  
 年齡十九歲(自家實驗)  
 眼球突出、甲狀腺腫大  
 及ビ羸瘦ヲ見ル

テタニー Tetanie.

遺傳ナシ 急性傳染病、中毒、腸胃病、甲狀腺  
 除去、哺乳、流行性等ノ原因アリ  
 神經ノ器械的及ビ電氣的反應(殊ニ平流電氣ニ對  
 スル)ハ亢進ス(神經及ビ血管幹ヲ壓迫シテ發スル  
 痙攣ヲ「トルツニー」氏ノ現象ト云フ 「Frousseau's  
 Phenomenen.」

痙攣ノ際疼痛アリ

破傷風 Tetanus.

トムソン氏病

Thomson'sche Krankheit, Myotonia congenita.

病ハ先天性及ビ遺傳性ナリ  
 病ノ特徴ハ隨意運動ノ際筋ノ攣縮患者ノ欲スルヨ  
 リ久シキニ瀕ルニアリ  
 強度ノ電氣ヲ以テ筋ヲ直チニ刺戟スルキモ亦刺戟  
 后尙ホ持長スル攣縮ヲ起ス  
 筋ノ器械的及ビ電氣的興奮性ハ亢進セリト雖モ神  
 經ノ興奮性ハ尋常ナリ  
 痙攣ノ際疼痛ナシ

斯篤利幾尼涅中毒

Strychnin-Intoxi- cation

原因「ラタヌス」微菌ニアリ故ニ外傷ニ由テ起ル  
咀嚼筋先ツ侵サル  
漸々痙攣ヲ全身ニ及ボス  
顔貌恐ルハシ  
經過ハ少ナクモ數日ヲ費ヤス

藥品ノ服用  
全身平等ニ侵サル  
急ニ全身痙攣ヲ來ス  
然ラズ  
廿分乃至二時間内ニ死シ或ハ恢復ニ赴ムク

### 歇斯的里 Hysterie.

精神的症候 感情傾向意志ノ違常ヲ呈ス

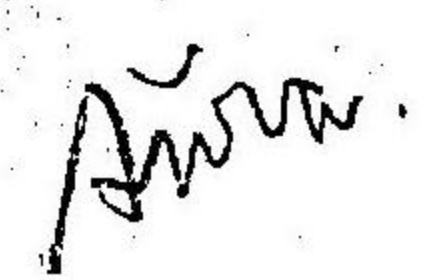
痙攣  
全身痙攣ハ強直性ニシテ弓狀ヲ呈シ或ハ間代性痙攣  
局部性トシテ咀嚼筋痙攣、頸筋項筋痙攣、嚙下筋痙攣(歇斯的里性恐水病  
Hydrophobia histerica) 横膈膜痙攣(吃逆)其他泣、笑、欠伸等ノ痙攣及ビ大舞蹈  
病、カタレプシー等

運  
害動

### 癲癇 Epilepsie.

前驅症 知覺的運動的血管運動的及精神的前兆(Aura.)  
發作 叫號、十秒乃至三十秒間強直拇指屈曲、「チアノーゼ」、呼吸停止次デ間代性痙攣

麻痺 半身及ビ孤發麻痺(局癱)截癱等多クハ知覺鈍麻ヲ兼テ又ハ痙攣性麻痺  
ナリ  
過敏 卵巢、睾丸、脊椎、胸部等ノ諸點ニアリ或ハ頭痛若クハ神經痛トシテ現ハレ  
或ハ五官器ノ過敏ヲ呈ス  
知覺障礙 表面及ビ深部ノ觸覺、溫覺ノ麻痺ニシテ半身若クハ一肢ニ局シ神經ノ分  
布及ビ腦脊髓ノ解剖的關係ト相符合セズ  
視野ノ狹小、色盲及ヒ聽覺、味覺、嗅覺ノ消失  
血管神經及  
分泌異常 局部ノ貧血、充血、齒齦、呼吸器、胃粘膜等ヨリ出血スルコトアリ  
唾液、淚液、汗液、尿等ノ分泌減退若クハ旺盛



ヲ起シ三十秒乃至五分間持續シ爲ニ外傷ヲ被リ兩便失禁ス臆及瞳孔反射消失呼吸困難ヲ呈ス

發作后 發作后ニ至レハ患者嗜眠狀トナリ或ハ精神錯亂ヲ呈ス 尿中蛋白ヲ含ミ或ハ尿崩糖尿等ヲ來ス而シテ体温ハ〇.五乃至一.〇昇騰ス  
癲癇發作ノ變態 癲癇性眩暈 癲癇性昏胃 騷狂發作等  
左ニ一二ノ類似症ヲ舉グ

「ジャクソン」氏癲癇ニハ一肢若クハ半身麻痺拘攣半身知覺鈍麻頭痛嘔吐鬱血乳頭アリ其他ノ症狀ハ特發癲癇ニ同ジ

子癲 小兒ニ於テハ齒牙發生期蛔蟲腸胃加答兒急性癲癇熱性病ニ由テ起リ婦人殊ニ貧血若クハ神經質ノ者ニ於テハ妊娠中分娩時若クハ其前後ニ發ス  
尿毒症ノ痙攣ニハ嘔吐昏睡浮腫蛋白尿網膜炎アリテ尿中ニ蛋白ヲ見ル

癲癇 Epilepsie.

歇斯的里 Hysterie.

急ニ人事不省トナル

顔面蒼白、口泡沫ヲ噴キ眼瞼半バ開キ、眼球廻轉シ  
鬮牙シ舌ヲ嚙ミ、瞳孔光線ニ反應セズ

顔面痙攣アリ

患者感覺ヲ失フ

發作ノ爲メ体温昇騰ヲ來ス

痙攣ハ一側ニ於テ他側ヨリ甚シキヲアリ且ツ強直

性痙攣ヲ呈ス

發作時間短シ

發作后昏睡狀トナリ精神痙鈍及ヒ頭痛ヲ殘ス

屢々夜間ニ發スルヲアリ

男女ヲ論セズ

人事不省トナルヲ漸々且ツ全ク失神セズ

顔面潮紅或ハ其色ヲ變ゼズ口泡沫ヲ噴カズ眼瞼閉  
キ眼球動カズ舌ヲ咬傷シ又ハ鬮牙スルヲナシ且瞳孔反應存在ス

顔面痙攣ナシ

患者欠伸シ或ハ笑ヒ或ヲ噎ブ

發作ノ爲メ体温昇騰ヲ來スヲナシ

主トシテ間代性痙攣ナリ

發作時間長シ

毎回發作后睡眠ヲ來スヲナク直ニ醒覺シ心神沈

鬱ス

夜間ニ稀ナリ

女子ニ多シ



ヒポコンドリー

Hypochondrie.

現在ニ於テ重症ノ存在シ或ハ未  
來ニ於テ疾病ノ襲來スルヲ恐ル  
、ヲ以テ本色トス而シテ醫ハ其  
空想ノ根源タル病ヲ發見スル能  
ハザルコアリ或ハ貧血、消化不  
良、頭痛、羸瘦、神經衰弱等ノ存  
在スルコアリ若シ多少病ニ罹レ  
ル臟器アルキハ患者ハ神經的ノ  
知覺過敏ニヨリ其感覺ヲ誤解シ  
例之バ心悸亢進ヲ以テ心臟麻痺  
ノ兆、發疹ヲ以テ微毒ト爲スガ

神經衰弱

Neurasthenie.

神經衰弱ハ「ヒポコンドリー」ノ  
原因トナルコアリ且ツ神經衰弱  
ニハ多少「ヒポコンドリー」ノ性  
質ヲ混ズルコ多シ殊ニ生殖器ノ  
過勞ニ由テ起レル者ニ於テ然リ  
精神ノ興奮シ易キハ「ヒステリ  
」ニ於ケルガ如シ

腦症狀

頭重、頭痛、頭部ノ知覺過敏、整  
然タル精神作用(思考等)ヲ營ム  
コ能ハズ久時讀書スルコ能ハズ

ヒステリー

Hysterie.

「ヒステリー」ニモ亦多少自己ノ  
身体及ヒ精神ニ意ヲ注グ「ヒ  
ポコンドリー」ノ如キアレヒ乙  
ニ於ケルガ如ク病ヲ恐ル、ノ一  
方ニノミ傾クコナシ且ツ「ヒス  
テリー」ノ條下ニ述ベタル症狀  
アリ

如シ

心思沈鬱、不眠、眩暈、外界ニ對  
スル恐怖等

脊髓症狀

身体疲勞シ易ク背部及ヒ四肢ニ  
疼痛又ハ其他ノ知覺異常アリ、  
遺精、陰痿、便秘、胃部壓重、食思  
不振

血管運動神經症狀

心悸亢進、心部不安、四肢厥冷、  
發汗減少又ハ過多、煩熱、唾液分  
泌過多等

現症ニハ 瞳孔散大、反應過敏、  
手ノ振顫、睫及ヒ皮膚反射ノ亢  
進等アリ

1/34

明治廿七年五月六日印刷  
明治廿七年五月十日發行

著者兼  
發行者

印刷者

印刷所

發兌書肆

正價金五拾五錢

東京市神田區東福田町一番地

三浦謹之助

東京市芝區愛宕下町二丁目二番地

武田文八

東京市京橋區八官町十九番地

忠愛社

東京市日本橋區馬喰町二丁目五番地

島村利助

同 本郷區春木町三丁目一番地

同 支店

同 本郷區湯島切通坂町八番地

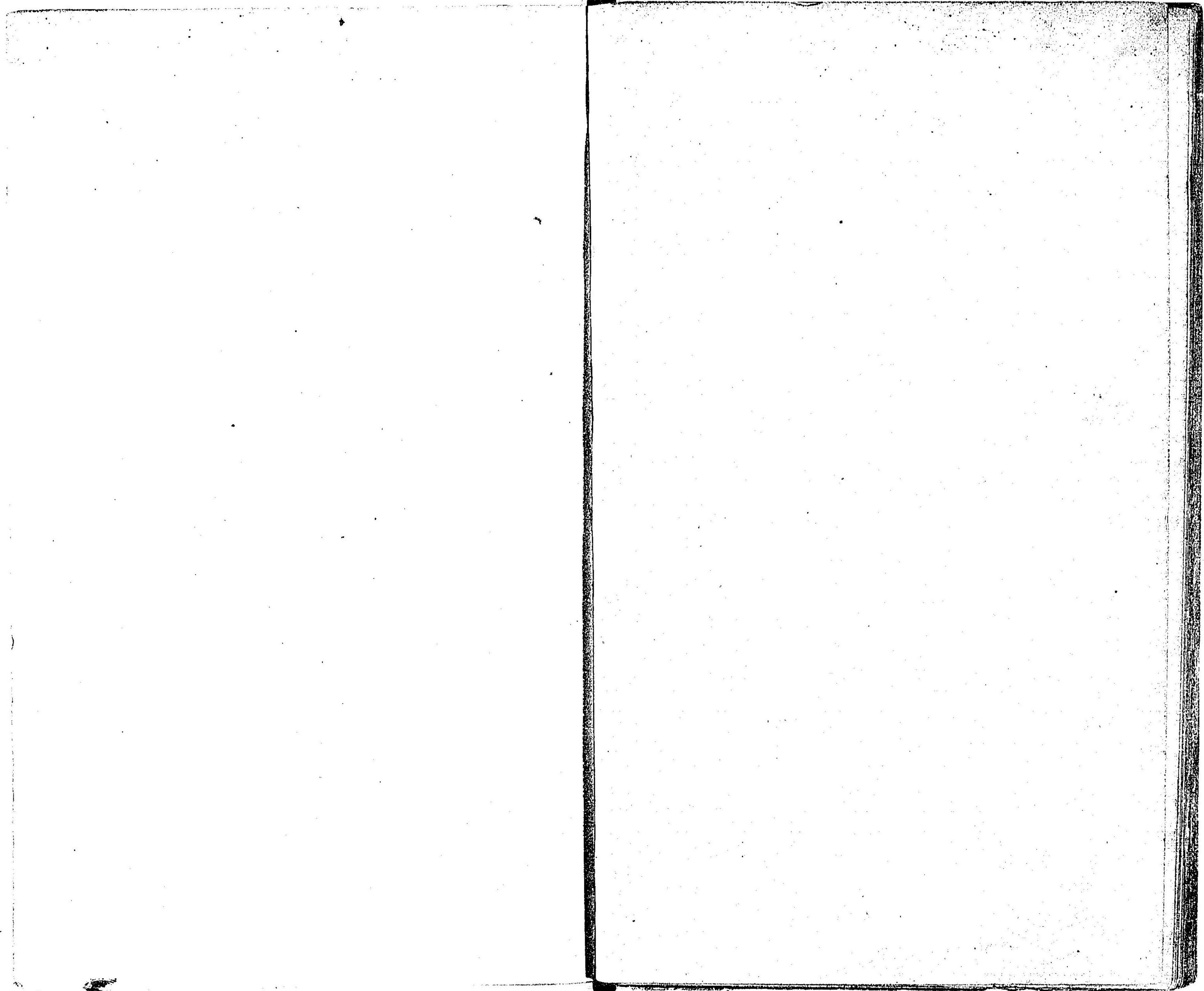
同 南江堂

同 本郷區春木町二丁目

同 半田屋

山形縣酒田上臺町百四十六番地

鈴木喜八



44  
220

